

50th Anniversary

この

10

年の
軌跡

MS&AD MS&ADインシュアランスグループ
三井住友海上福祉財団



ごあいさつ

三井住友海上福祉財団は、昨年9月1日に設立50周年を迎えることができました。これも、ひとえに皆さまのご支援の賜物と深く感謝申し上げます。当財団は、交通事故などの各種災害や高齢者福祉の分野において、研究助成を中心に各種の助成事業を行っておりますが、おかげさまでこれまでの50年間に、総件数2,373件、総額26億4千万円の助成を行うことができました。

設立以来の経緯を振り返りますと、住友海上火災保険株式会社（現三井住友海上火災保険株式会社）が1973年に創業80周年を迎えた記念事業の一環として、1975年9月1日に当財団を設立し、この事業を開始したのがはじまりです。

当時の日本の経済社会は、1970年代のオイルショックを機に高度経済成長が終わりを告げ安定成長期に移行する途上にあつて、公害問題や社会福祉の立ち遅れをはじめとする高度経済成長のひずみが問われ始めた時期でもあり、そのような時に、損害保険という枠を越えたより広い分野において社会福祉に貢献したいとして、当財団が設立されたものです。

設立当初の交通事故や各種災害の被災者の援護事業への助成から、次第に、交通安全広報車や緊急医療機器の購入費用助成など事故・災害の防止や被害の抑制に役立つ助成へと活動を広げ、その後、課題の発掘と解決への寄与を目指して学術研究への助成に重点を移してまいりました。そして1991年には、高齢者福祉分野にも研究助成の対象を広げました。更には、2008年にはタイ、2018年には台湾にも研究助成の対象を広げており、日本国内はもちろんのこと、アジア諸国の交通安全や防災にも貢献すべく、事業を拡大してまいりました。

このたび設立50周年を記念して、直近10年間の活動を中心にまとめた『この10年の軌跡』を刊行いたしました。この冊子に収録されたこれまでの事業に改めて目をやりますと、一つひとつの助成規模はささやかではありますが、その時々々の社会のニーズに応え、広い分野の多くの方々に様々な形でお役に立つことが出来たのではないかと自負しています。

当財団の設立趣意書には「将来は、その時代に即した事業を加え財団基盤の拡充をはかり、より調和のとれた社会の建設と繁栄に寄与したい」とうたっております。社会情勢の変化が益々加速する中、これからも社会と時代の求めるものを読み取り、より良きそして豊かな社会の実現に向けて貢献していきたいと考えておりますので、皆さま方の変わらぬご支援、ご指導を賜りますことを切にお願い申し上げます。

2026年2月

公益財団法人 三井住友海上福祉財団
理事長 柄澤 康喜

I. 財団について

1. 概要

名称：公益財団法人 三井住友海上福祉財団

基本財産：20億324万円 <令和7年（2025年）3月31日現在>

理事長：柄澤 康喜

所在地：東京都千代田区神田駿河台3-9 三井住友海上駿河台ビル

2. 沿革

当財団は、住友海上火災保険株式会社（現三井住友海上火災保険株式会社）が昭和48年（1973年）に創業80周年を迎え、その記念事業の一環として福祉財団設立の構想を発表、まずは翌年2月に任意団体「住友海上福祉会」を発足しました。その後、社会福祉向上に関する調査・研究を行いながら、財団設立の準備を進めてきた結果、昭和50年（1975年）9月1日に当時の内閣総理大臣から許可を得て、総理府交通安全対策室（現内閣府）所管のもと「財団法人住友海上福祉財団」を設立しました。

設立趣意書では、「わが国における社会福祉の現状は、施設・資金の面で必ずしも十分ではない」とし、交通事故被害者のご家族や災害救助活動による殉職者ご遺族への助成を中心に事業をスタートしました。また、同書には「将来的にその時代に即した事業を加え、より調和のとれた社会の建設と繁栄に寄与したい」というビジョンも示されています。

その後、平成7年（1995年）には、所得税法および法人税法上の「公益の増進に著しく寄与する法人（特定公益増進法人）」に、さらに平成13年（2001年）には、租税特別措置法上の「科学または教育の振興に寄与するところが著しい公益法人」となり、寄附される方々にとって税制上のメリットを得られる法人となりました。また、同じく平成13年（2001年）10月1日に、設立母体の住友海上火災保険株式会社と三井海上火災保険株式会社が合併したことに伴い、財団名を「財団法人三井住友海上福祉財団」に改称。さらに、公益法人関連法の改革による制度改定において、平成21年（2009年）12月1日から「公益財団法人三井住友海上福祉財団」に移行し、現在に至っております。

設立趣意書 全文（昭和50年当時）

当社は設立以来今日まで「損害保険事業を通じて社会公共に奉仕しその福祉と繁栄に貢献する」ことを社是として事業活動を推進して来たが、幸い事業も概ね順調に推移し、過般創業80年を迎えるに至った。

この間当社は社是に謳われたとおり、その事業を通じて社会公共のためいささか貢献し得たものとひそかに自負しているが、翻ってわが国社会福祉の現状をみるに、その施設においてなお不十分であり、運営資金においても潤沢とは言い難く、当社の立場に於いてみるに、交通事故により死亡した者の遺家族或いは負傷した者の救済についても十分とは言い得ない。

当社はかかる実態に鑑み創業80周年を記念してここに財団設立を発意し、これ等福祉施設並びに遺家族又は負傷した者に対し出来得る限りの寄附助成を行い、将来はその時代に即した事業を加え財団基礎の拡充をはかり、より調和のとれた社会の建築と繁栄に寄与したい。

3. 目的

設立当初は「交通事故又は各種災害による死亡者の遺族及び負傷者を援護するとともに、交通事故又は各種災害の防止に関する研究、医療に関する研究及びそれらの諸施設の充実と拡充をはかり、社会の福祉と繁栄に貢献すること」を事業目的に掲げていました。

その後、財団設立 15 周年を契機とし、翌年の平成 3 年（1991 年）に高齢者福祉の研究と福祉事業・施設への助成を新たに事業目的に加え、事業分野を「交通事故・各種災害の防止等」と「高齢者福祉」の 2 つとし、現在に至っております。

定款における目的及び事業（第 3 条）

この法人は、交通安全または各種災害及び高齢者の福祉に関する研究、施設又は事業に対する援助を行い、以って社会の福祉と繁栄に貢献することを目的とする。

4. 事業内容

「交通事故・各種災害の防止等」と「高齢者福祉」の 2 分野において、①研究助成、②著作・論文表彰、③普及・啓発助成、④施設・事業助成などの事業を行っています。

(1) 研究助成

設立当初より財団の重要な事業として継続的に実施してきましたが、平成 5 年（1993 年）以降はさらに中核事業として位置付けています。国内に加えて、平成 19 年（2007 年）にはシンガポールを皮切りにアジア地域での研究助成を開始しており、最近では助成金全体の約 9 割をこの研究助成としております。

選考にあたっては、「研究内容が萌芽的」あるいは「研究者が若手である」などで、研究分野が確立過程にあるが故に公的助成など他の援助が得にくい研究や、テーマの設定や研究方法に獨創性のある研究、ならびに社会的意義や実用性の高い研究等に対して、より多く助成できるように努めています。研究助成は、今後とも当財団の主要な事業領域としての役割を担っていくものと考えております。

(2) 著作・論文表彰

平成 14 年（2002 年）に「三井住友海上福祉財団賞」を創設し、2 分野それぞれにおいて優れた著作・論文を表彰しています。表彰にあたっては、特に若手研究者によるもの、現場に即した実際的な研究発表、社会への普及啓発について大きな貢献が期待できるものなどに主眼をおいて選考するよう努めています。

(3) 普及・啓発助成

交通事故・各種災害の防止等分野では、1980年代に入ってから1990年代初期にかけて、それまでの援護事業に代わって、普及・啓発事業が発展してきました。

当時の普及・啓発事業の代表的なものが、全国各地にある交通安全協会に対する交通安全指導広報車の購入費用助成でした。遠隔地を含め全国ベースで、求めに応じて助成を行い、財団活動のPRにも大きく貢献することになりました。

昭和56年（1981年）から今も継続しているのが、内閣府と開催地の自治体が主催する「交通安全フォーラム」（当初は「交通安全シンポジウム」と称していた）への助成事業です。その他には「春・秋の全国交通安全運動」「交通安全ファミリー作文コンクール」のポスター作製費用の助成なども行ってきました。また、過去においては各地の交通安全母の会に「三井住友海上福祉財団特別賞」を贈呈し、全国各地における母親の交通安全活動を支援してきました。

一方、高齢者福祉分野でも、平成13年（2001年）まで十数年にわたり、高齢者問題に関する国際シンポジウムなどを、国やエイジング総合研究センターと共催してきました。さらに、最近では令和5年（2023年）6月に開催された「第33回日本老年学会総会」において、「高齢者の自動車運転をめぐって」と題した合同シンポジウムにも協賛しました。全国の老年学研究者に対する当財団のPRの機会にもなりました。



(4) 施設・事業助成

施設・事業助成は、1980年代半ばまでは交通事故に遭われた方の救急治療にあたる病院への救急車購入費用の助成や人工蘇生装置、CT スキャンなどの医療機器購入費用の助成などを中心に行ってきましたが、平成3年（1991年）からは高齢者福祉分野に軸足を移してきました。その取り組み当初は、在宅介護支援センターで使用する車両購入費用助成が大半でした。その他各地の特別養護老人ホームへのシャワーベッドなど介護機器類購入費用の助成や、配食サービスボランティア団体への給食設備機器購入などの助成も行なってきました。最近では、デイケアサービス利用者の送迎用の福祉車両購入費用の助成（※）を年間1～3件のペースで継続してまいりました。

※ただし、福祉車両購入費用の助成は、諸般の事情により令和7年度（2025年度）より、しばらく休止しております。

(5) その他過去の助成事業

① 援護事業助成

当財団の助成事業はこの援護事業助成から始まりました。設立当初は、交通事故の被害者や殉職された警察官・消防士の遺家族への援護、遺児への育英奨学などの援護事業を行っ

ている団体への助成が事業の中心を占めていました。酒田の大火（昭和51年（1971年））や雲仙普賢岳火砕流（平成3年（1991年））による殉職消防団員への弔慰金なども当該事業で助成しました。

② 出版助成

「住友海上福祉財団交通安全シリーズ」として交通安全の研究に取り組んでおられる第一線の研究者による著作を過去に刊行しておりました。

設立以来の累計助成実績内訳 <昭和50年度（1975年）～令和6年度（2024年度）>

金額単位：万円

助成事業種類	交通事故・各種災害の防止等分野		高齢者福祉分野		2分野合計		ウェイト（金額）
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	
援護事業	144	17,380	0	0	144	17,380	6.6%
普及・啓発	475	49,673	28	5,848	503	55,521	21.0%
施設助成	91	18,745	230	17,919	321	36,664	13.9%
研究助成（国内）	465	59,082	729	85,273	1,194	144,355	54.5%
研究助成（海外）	103	5,121	43	2,586	146	7,707	2.9%
著作・論文表彰	19	650	38	1,370	57	2,020	0.8%
出版助成	8	1,050	0	0	8	1,050	0.4%
合計	1,305	151,701	1,068	112,996	2,373	264,697	100%

直近10年間の累計助成実績内訳 <平成27年度（2015年）～令和6年度（2024年度）>

金額単位：万円

助成事業種類	交通事故・各種災害の防止等分野		高齢者福祉分野		2分野合計		ウェイト（金額）
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	
普及・啓発	39	881	1	88	40	969	2.2%
施設助成	0	0	21	1,988	21	1,988	4.6%
研究助成（国内）	93	8,667	227	25,600	320	34,267	78.8%
研究助成（海外）	69	3,863	20	1,328	89	5,191	11.9%
著作・論文表彰	9	360	15	720	24	1,080	2.5%
合計	210	13,771	284	29,724	494	43,495	100%

5. 基本財産

設立に際し、住友海上火災保険株式会社（現三井住友海上火災保険株式会社）より基本財産として5,000万円、運用財産として3,000万円、合計8,000万円の寄付を受けて事業を開始いたしました。

また、あわせて財団設立時より住友海上火災保険株式会社では会社財産のうちから10億円を区分運用し、そこから生じる収益相当額を当財団の運営費として毎年寄付いただいております。その後、この10億円は平成6年（1994年）まで数回に分けて逐次当財団に移管され、それらの資金はすべて基本財産に繰り入れております。

さらに、毎年度の事業活動の結果生じた剰余金の一部を、財団の基盤強化のために随時基本財産に繰り入れてきました。また、昭和53年（1978年）より住友海上（現三井住友海上）の役職員・OB・OGの方々ならびに財団関係者の皆様からも多数温かいご寄附を賜り、これら寄附金も社友基金（当時は清友基金）と名付けて基本財産に繰り入れてまいりました。社有基金は定期預金の他、各種有価証券でも資産運用し、令和7年（2025年）3月末には評価益も含めて5,934万円となっております。

そして、この社有基金の他に一般基金も含めた基本財産合計額は、20億324万円に達しております。

II. 特別寄稿

三井住友海上福祉財団の交通事故・各種災害の防止等分野の研究助成

評議員 / 交通事故・各種災害の防止等分野選考委員長
日本大学名誉教授 高田 邦道

私の財団との関わりは、現在の三井住友海上福祉財団の前身である住友海上福祉財団の研究助成を1994年（平成6年）に、『わが国における「ゾーン30」の適用可能性についての研究』というタイトルで応募・採択されたことに端を発する。ドイツのボン市やフライブルグ市の調査の分析結果に基づき、わが国でのトライを提案した60ページの報告書が残されている。

この研究成果は、警視庁などの社会実験などで実施されたが、道路管理と交通管理、そして運輸管理が別々のわが国の行政体制が、交通安全対策に対して未だに解決していない、多くの課題があります。したがって、交通安全対策について、何度か議論し、理論の実際への適用がむずかしいことをよく熟知していた前任の故長江啓泰委員長から、『交通安全研究助成の支援業務を引き継いでほしい』と説得されて引き受けました。

この分野の選考作業は、交通心理学、交通社会学、救急医学、自動車工学の先生方（58ページ参照）に助けられながら、どうにか職責を全うしている次第です。交通事故・各種災害の防止等分野の研究は、受け身であり、社会への還元が難しく、ただただ地道に、種々の課題を一つ一つ潰していかなければなりません。すなわち、交通事故や各種災害は、人、車、道、気象など多くの要因の組み合わせによって発生する現象で、特効薬がありません。そのためには、実態の分析、原因の追究、安全策の社会実験などいろいろな角度から検討や対策の提案が必要となります。災害は、いつ、どこで、何が起こるのか予測さえできません。したがって、研究テーマに絞り込むところから難しい分野です。

これまでの交通安全の研究やそれに関する対策などの成果、その広報などの効果の測定は非常に難しいけれども、道路交通事故死亡者数は、1970年の16,765人/年から年間2,663人まで激減させるまでに手は打たれてきました。しかし、まだ1日当たり7人余りの交通事故死者数を数えています。これに対して、自然災害による死亡者数は年間100人程度です。ただ、近年は増加傾向にあり、非常時の交通・安全対策の必要性からも、この分野にも研究助成の枠を広げようということで、2024年から各種災害の防止に関する研究が助成対象になることを積極的にアピールしています。車社会にあって、避難や復旧に自動車の持つ役割も大きく、道路システムをどう整備し、どう運用・管理するかにかかっています。その、運用・管理ができる基礎的な研究なしには、現場での有効な手立ては立案できません。この交通安全や自然災害の研究は、ケースバイケースで難しく、これまではどちらかというところマクロな見方に限定されたところがありましたが、これからは死亡者数・負傷者数ゼロを目指して、キメの細かい研究が望まれています。



<プロフィール>

最終学歴 日本大学理工学部
1989年 日本大学理工学部教授
2010年 交通事故・各種災害の防止等
分野選考委員
2011年 日本大学名誉教授
2016年 評議員 / 交通事故・災害の防止
等分野選考委員長

三井住友海上福祉財団の設立 50 周年と 高齢者福祉分野の研究助成の動向

理事 / 高齢者福祉分野選考委員長
国家公務員共済組合連合会虎の門病院 名誉院長 大内 尉義

三井住友海上福祉財団（以下、財団）が設立されて 50 年の節目の年を迎えられたこと、まことにおめでとうございます。現在、財団理事、高齢者福祉部門選考委員長を勤めております立場からお祝いを申し上げるとともに、高齢者福祉分野の選考について、前回の 40 周年（2015 年）以降の 10 年（2015-2024）の動きをご報告したいと思います。

財団の設立は 1975 年ですが、高齢者福祉に関する研究助成が開始されたのは 1991 年、財団設立 15 周年の時と伺っています。わが国における高齢化率は、1950 年においてはわずか 4.9% でした。財団の高齢者福祉の研究助成が開始された頃には 12% にまで増加していますが、現在の 29.4% と比べてまだまだ低い数字でした。したがって、当時は高齢化に伴う問題も今ほどには認識されておらず、このような時代に、将来の超高齢社会の到来を見据えて、高齢者、あるいは高齢社会に関する科学、しかも、医学／医療、看護にとどまらず、介護、福祉、さらに社会学、経済学、工学にまで及ぶ幅広い領域の科学を推進すべきである、という財団の先駆的な発想はきわめて高く評価されます。

高齢者福祉分野の、この 10 年間の応募件数、採択件数はほぼ同水準であり、それぞれ計 1,237 件、227 件でした。採択率は 18.4% と大変狭き門になっています。内容的にも、応募される研究のレベルが年々高くなっていく傾向があり、その意味でもさらに採択の難度が増しているように思われます。採択された申請の中での医学・医療系と介護・福祉・社会系の比率はおおよそ 10 : 7 と、高齢者／高齢社会に関して、広い領域にわたる研究助成が行われていることがわかります。また、最近では、女性研究者の採択が増加傾向にあることも特筆すべきことと考えています。

一般の研究助成のほかに、「財団賞」、「財団奨励賞」として著作、論文に対する表彰が行われていますが、この 10 年間では、財団賞は 3 名、財団奨励賞は 9 名の方が受賞しています。財団賞の受賞が少なく、今後、多くの研究者の方々から、素晴らしい著作、論文の応募のあることを期待しております。

わが国においては、人口の減少と相俟って、今後、高齢化がますます進むことが予測されています。そのような社会情勢のもと、高齢者／高齢社会に関する研究をさらに発展させ、活力ある、明るい健康長寿社会を構築していくことが喫緊の課題であり、その道筋を世界に示すことが、短期間にトップレベルの高齢社会を実現したわが国の責務であると考えています。今後、当財団の研究助成がそのために大きく貢献し続けることを願っております。



<プロフィール>

最終学歴 東京大学医学部
1995 年 東京大学大学院医学系
研究科加齢医学講座教授
2002 年 評議員 / 高齢者福祉分野
選考委員
2011 年 理事 / 高齢者福祉分野
選考委員長
2013 年 国家公務員共済組合連合会
虎の門病院長、
東京大学名誉教授
2020 年 同病院顧問
2025 年 現職

Ⅲ. 設立 50 周年記念式典

令和 7 年(2025 年)9 月に設立 50 周年を迎えたことを記念し、11 月 28 日に記念式典を開催しました。



式典プログラム概要

- 開催日時：令和 7 年(2025 年)11 月 28 日(金) 14:00～17:00
- 開催場所：住友会館(東京都港区六本木 1-6-1 泉ガーデンタワー 42 階)
- 列席者：設立 50 周年記念特別賞・財団賞等受賞者、国内研究助成対象者
内閣府、友好団体、当財団の役員・評議員・選考委員 他
- 表彰：設立 50 周年記念特別賞 4 名、財団賞 1 名、財団奨励賞 3 名
- 贈呈式：令和 7 年度国内研究助成の贈呈
(交通事故・各種災害の防止等分野 12 名、高齢者福祉分野 23 名)
- 記念講演：設立 50 周年記念特別賞・財団賞の受賞者による講演
 1. 『Virtual Co-Driver — AI が拓く、人に寄り添う運転支援技術』
東京大学大学院工学系研究科 特任教授 亀崎 允啓
(設立 50 周年記念特別賞 交通事故・各種災害の防止等分野)
 2. 『地域連携を通じた社会の創り手育成を目指す案教育プログラムの開発
—義務教育段階における授業実践を事例に—』
愛媛大学教育学部 准教授 井上 昌善
(設立 50 周年記念特別賞 交通事故・各種災害の防止等分野)
 3. 『長期観察高齢者住民コホートをを用いた運動器疾患の実態の解明』
東京大学医学部附属病院 22 世紀医療センター 特任教授 吉村 典子
(設立 50 周年記念特別賞 高齢者福祉分野)
 4. 『地域住民における身体的・認知的フレイル』
広島大学大学院医系科学研究科 准教授 陳 三妹
(設立 50 周年記念特別賞 高齢者福祉分野)
 5. 『高齢者の安心安全な薬物療法に向けて：日本版抗コリン薬リスクスケールと
フレイル・サルコペニア新規発症との関連』
東京大学未来ビジョン研究センター 特任講師 田中 友規
(財団賞 高齢者福祉分野)

■ 式典冒頭に、吉野直子様(ハープ奏者)によるクラシック音楽の演奏が行われました。

柄澤理事長挨拶



公益財団法人三井住友海上福祉財団 理事長 **柄澤 康喜**

主力事業である研究助成において、令和8年度から上限額を引き上げた500万円の助成枠を新設します。今後大きな成果が期待できる画期的な研究に手厚く後押ししたいという主旨です。研究助成は必ずしも直ちに成果になるものではありませんが、それでもこの地道な活動を継続することが当財団の存在意義であり、両分野における社会的課題解決に向けて、次の50年もしっかりと推進してまいります。

ご来賓ご祝辞



内閣府大臣官房審議官（共生・共助担当） **南 順子 様**

内閣府では第11次交通安全基本計画で「事故のない社会」を目指し、現在第12次の計画も作成中です。また、令和6年には高齢社会対策大綱を策定し、高齢者を支える持続可能な社会の構築に向けた基本的な考え方も発信しています。三井住友海上福祉財団が、これら両分野に跨る研究助成を長年継続されていることは大変意義深く、今後もより一層充実させていくことを期待しています。

吉野直子様（ハープ奏者）のプロフィール等



プロフィール

ロンドン生まれ。1985年イスラエル国際ハープ・コンクールに17歳で優勝。世界各地でリサイタルを行うとともに、ベルリン・フィル、イスラエル・フィル、アーノンクール、小澤征爾、クレーメルなど、国内外の主要オーケストラ、指揮者、ソリストと数多く共演。2016年自主レーベルによるCD制作を開始。国際基督教大学卒業。東京藝大客員教授

記念式典演奏曲目

- C. ドビュッシー（H. ルニエ編）：アラベスク第1番
- M. グランジャーニ：コロラド・トレイル
- C. ドビュッシー：亜麻色の髪の乙女
- M. トウルニエ：朝に

設立 50 周年記念特別賞

前回の設立 40 周年記念特別賞の対象期間以降の 10 年間（2013 年度～ 2022 年度）で、当財団から国内研究助成を受けた方（282 名）を対象に募集した結果、51 名の応募をいただきました。助成対象の研究をその後如何に発展させたかという観点から厳正なる選考を行い、特に顕著な成果を挙げられた 4 名の研究者に贈呈を決定しました。受賞された研究者の皆様には、記念式典で講演を行っていただきました。

*講演資料は、財団 web サイトからご覧いただけます（財団賞等一覧ページ参照）。

交通事故・各種災害の防止等分野

亀崎 允啓

東京大学大学院工学系研究科 電気系工学専攻
特任教授

2020 年度助成 研究課題

『ドライバー・コンピテンシー・アセスメント・システム (D-CAS) の実現に向けて：ドライバーの状況認識推定システムの開発』

贈呈理由

「Virtual Co-Driver」につながるドライバーモニタリングの研究であり、学術性だけでなく産業界にも高く評価され、実証実験もすでに始めていることから、特に優れた研究であると評価されました。



井上 昌善

愛媛大学教育学部
准教授

2019 年度助成 研究課題

『地域の安全を担う市民育成を目指す教育プログラムの開発
—「警ら箱」の教材化を事例として—』

贈呈理由

従来の学校における交通安全教育の取組を、持続可能な社会の創り手としての市民の育成という観点から捉え直し、具体的に学校と地域社会の連携方法を授業実践に基づいて提唱してきた点が高く評価されました。



高齢者福祉分野

吉村 典子

東京大学医学部附属病院
22世紀医療センターロコモ予防学講座
特任教授

2016年度助成 研究課題

『長期観察高齢者住民コホートをを用いたフレイルとロコモの実態と予防に関する研究』

贈呈理由

17年間で合計15,000人以上という、おそらく世界的にも最大規模かつ最長となる追跡調査ROAD Studyを根気よく行い、骨粗鬆症とロコモの研究で成果を上げました。その後視野をフレイル研究に広げて、フレイルの推定人口をいち早く明らかにしたものです。



陳 三妹

広島大学大学院医系科学研究科
健康創成推進分野
准教授

2015年度助成 研究課題

『地域在住高齢者における認知機能障害と身体的フレイルの交互作用が要介護認定に与える影響についての検討：4年間の追跡研究』

2021年度助成 研究課題

『地域在住高齢者における認知的フレイルと介護給付費 および医療費との関連：8年間の前向き研究』

贈呈理由

高齢者の医療福祉における重要課題の一つである、身体的フレイルと認知的フレイルの交互作用が及ぼす影響についての研究をいち早く行ったものであり、さらには疫学研究にとどまらず、得られた成果を社会実装にもつなげている点で高く評価されました。これらの研究は、高齢者医療/福祉の発展、さらには介護政策にも寄与するものです。



財団賞（高齢者福祉分野）

2023年4月～2025年3月の期間に発表された著作・論文のうち、特に優れた研究内容と判断されたものについて表彰する「財団賞」「財団奨励賞」も4名選考されました。このうち、財団賞を受賞された研究者（1名）に、記念式典で講演を行っていただきました。

*講演資料は、財団 web サイトからご覧いただけます（財団賞等一覧ページ参照）。

田中 友規

東京大学未来ビジョン研究センター
高齢社会総合研究機構 特任講師

受賞論文

日本版リスクスケールを用いた抗コリン負荷量と地域在住高齢者のフレイル・サルコペニア発症との関連：柏コホート研究

贈呈理由

2024年に公開された日本版抗コリン薬リスクスケールを活用して、地域在住高齢者1,549名の9年間にわたる縦断研究データを解析し、抗コリン薬の負荷量とフレイル・サルコペニアとの関連を明らかにした国内初の実証実験です。この論文は、抗コリン薬の使用に対する警鐘を鳴らしたもので、高齢者医療への貢献度が高いエビデンスを提示されたことが高く評価されました。



財団奨励賞（高齢者福祉分野）

辻 大士

筑波大学体育系
助教

受賞論文

Community-level group sports participation and all-cause, cardiovascular disease, and cancer mortality: a 7-year longitudinal study
地域レベルの運動・スポーツグループ参加割合と全死因・循環器疾患・がん死亡：7年間の縦断研究

贈呈理由

運動・スポーツが盛んな地域に暮らすだけで健康状態の良好な人が多いという結果を導き出したもので、住民主体の「通いの場」の有効性や、寿命延伸効果をもたらすポピュレーション戦略の有効性を裏付けた研究です。スポーツなどの社会参加が寿命延伸や疾病リスクの低減に有効であることを科学的に証明した点で社会的インパクトも大きく、7年間の地道な縦断研究で非常に興味深い研究結果につなげた点が高く評価されました。



財団奨励賞（交通事故・各種災害の防止等分野）

岡本 正

銀座パートナーズ法律事務所
代表弁護士

受賞著作

災害復興法学Ⅲ

贈呈理由

各種災害において実践した被災者無料相談での事例をまとめ、「オールハザード・アプローチ」という視点から包括的な対策を提唱しているものです。ともすれば、時間の経過とともに忘れ去られがちな災害復興プロセスや教訓を、法律という形で保存しておくことに重要な意義を有するものと評価されました。



山口 徹雄

虎の門病院 循環器センター内科
医長

受賞論文

Impact of a national initiative to provide civilian cardiopulmonary resuscitation training courses on the rates of bystander intervention by citizens and survival after out-of-hospital cardiac arrest.

市民に対する心肺蘇生訓練を提供する全国的な取り組みが、市民による心肺蘇生行為実施率および院外心停止後の生存率に及ぼす影響について

贈呈理由

全国 35 万人の院外心肺停止患者を解析し、政府が推奨している市民に向けた心肺蘇生講習受講者数の推移と、市民による心肺蘇生行為の実施率やその生命予後への効果を検討したものです。実際に市民による蘇生行為の実践は大きく向上されているが、その実施率をさらに上げていく対策や、いまだに低い AED 使用率の向上も検討しており、今後の研究発展が大いに期待できると評価されました。



IV. 直近 10 年間の活動・トピックス

1. 海外事業の拡大 ～台湾の研究助成スタート～

社会福祉におけるさらなる貢献を目指して、海外事業も拡大してまいりました。平成 20 年（2008 年）のタイに続いて、平成 30 年（2018 年）には台湾においても「交通事故・各種災害の防止等」分野で研究助成事業をスタートさせました。

台湾では、三井住友海上の現地法人である明台産物保険股份有限公司に現地での募集や一次審査・選定等の業務を委託し、公的機関である財団法人保険事業発展中心と連携しながら運営しています。その過程で選定された案件を日本国内の選考委員会でも確認し、毎年 10 月の理事会で助成対象を最終決定するプロセスとなっています。

一方平成 19 年（2007 年）に開始したシンガポールでの助成事業は、現地事情により 2021 年度を最後に中止しています。

今後も機会を捉えて他のエリアに新たな展開を模索してまいります。

2015 年度～ 2024 年度の海外研究助成事業の実績

	交通安全		高齢者福祉		合 計	
	件 数	助成金額	件 数	助成金額	件 数	助成金額
シンガポール	5 件	415 万円	20 件	1,328 万円	25 件	1,743 万円
タイ	41 件	2,277 万円			41 件	2,277 万円
台湾	23 件	1,171 万円			23 件	1,171 万円
合 計	69 件	3,863 万円	20 件	1,328 万円	89 件	5,191 万円

台湾の贈呈式



2022 年 12 月



2023 年 12 月

タイの贈呈式



2024 年 1 月



2025 年 1 月

2. 新型コロナ禍における対応

< 令和 2 年度 (2020 年度) ~ 令和 3 年度 (2021 年度) >

新型コロナウイルス (COVID-19) が世界中で猛威を奮いました。これによって、人が集まる“密”を避けなければならず、会議や集団活動に大きく制限がかかり、多くの公益法人や NPO 法人が活動の中断を余儀なくされました。当財団でも、助成対象の検討・選定を行う選考委員会などの対面開催が難しい状況になりました。しかし、場合によっては各種会議 (選考委員会・理事会・評議員会など) を書面にて開催するなど工夫を凝らすことによって、このような不便な環境下でも順調に助成事業を継続することができました。

その間の助成実績は下記のとおりです。

【コロナ禍の助成実績】	令和 2 年度 (2020 年度)		令和 3 年度 (2021 年度)	
国内研究助成	37 件	3,569 万円	29 件	3,075 万円
海外研究助成	8 件	512 万円	9 件	632 万円
著作・論文表彰	3 件	110 万円	3 件	90 万円
普及・啓発助成	3 件	70 万円	3 件	69 万円
施設・事業助成	1 件	80 万円	—	—

3. 財団 web サイト改訂と広告宣伝活動

当財団が助成した研究結果については、「研究結果報告書集」を毎年発行するとともに、当財団の web サイトに掲載することによって、世の中に広く発信していました。しかし、過去の研究結果報告書を検索できないという課題を抱えていたことから、令和 4 年 (2022 年) に、web サイトにキーワードによる検索機能を追加し、より使い勝手の良いものに改良しました。

また研究結果に加えて、過去の財団賞・財団奨励賞受賞の履歴についても web サイトに追加し、発信情報の充実を図りました。

さらには、この web サイトを広く周知する目的で、研究者の目に触れる専門誌に広告を定期的に掲載することにしました。交通事故・各種災害の防止等分野では、一般社団法人国土政策研究会が毎年 2 回発行している「国土と政策」に、そして高齢者福祉分野では、一般社団法人日本老年医学会が発行している「日本老年医学会雑誌」にそれぞれ掲載しています。

今後も研究結果を広く役立てていただけるよう工夫してまいります。



4. 研究助成分野名称の変更

<「交通安全等」から「交通事故・各種災害の防止等」へ>

現在の「交通事故・各種災害の防止等」の分野名は、従来は長年「交通安全等」という名称で表記していました。この名称は、交通事故の対策がクローズアップされやすく、各種防災に関する研究助成の申請につながりにくいという課題認識のもと、令和6年度（2024年度）に現在の名称に変更しました。

また、あわせて応募要項の研究具体例にも、防災に関する記載を追加しました。これらによって、その後少しずつですが防災関連の申請も増えつつあります。

5. 現在の主な助成事業活動

(1) 国内研究助成

当財団設立当初より継続している中核事業であり、直近10年間でも全体の助成件数の8割近くを国内研究助成が占めています。今後も引き続きメインの事業として続けてまいります。

平成27年度（2015年度）から令和6年度（2024年度）の応募状況ならびに助成実施状況

	応募件数	決定件数	採択率	決定金額
交通事故・各種災害の防止等分野	392件	93件	23.7%	8,667万円
高齢者福祉分野	1,237件	227件	18.4%	25,600万円
合計	1,629件	320件	19.6%	34,267万円

上記表の通り、件数ベースでの採択率は2分野合計で約20%と狭き門となっております。

一方、下表の通り、助成1件あたりの助成金額単価、助成金額合計ともに、直近は増加傾向にあります。これは、優秀な成果が期待できる研究内容に対してより手厚く助成するという方針が反映したことによるものです。

直近3カ年の助成金単価推移（2分野合計）

実施年度	助成金額合計	決定件数	1件当たり単価
2022年度	3,445万円	31件	111.1万円
2023年度	3,525万円	35件	100.7万円
2024年度	4,664万円	37件	126.1万円

*1件当たりの助成限度額は、現在200万円です。

① 募集方法

毎年4月1日から6月末までの期間で募集しています。当財団の公式webサイトに応募要項を掲載するとともに、(公財)助成財団センターホームページの『助成奨学情報navi』や大学病院情報ネットワーク(略称UMIN)のホームページなど、多くの媒体に掲載し、広く周知されるよう努めています。

② 選考プロセス

各選考委員が個別評価した後、さらに評点等を集約・整理した上で、毎年9月～10月上旬にかけて選考委員会を開催し採択案件を選定。その後10月下旬に開催される理事会で最終決定しています。

③ 贈呈式の開催

毎年11月中旬～下旬に贈呈式を開催。対象研究者にご参加いただき贈呈状をお渡ししています。

令和6年度(2024年度)贈呈式の様子 <於:住友会館>



交通事故・各種災害の防止等分野 - 代表受領



高齢者福祉分野 - 代表受領

④ 研究結果報告書の提出・集約

研究期間終了後は速やかに研究結果報告書を研究者から提出していただき、年度毎にまとめた『研究結果報告書集』を毎年7月に発刊し、研究者本人はじめ関係先団体に送付しています。

あわせて当財団webサイトにも掲載し、研究結果が広く活用されるよう努めています。



研究結果報告書集 第29巻

(2) 著作・論文表彰 ～ 三井住友海上福祉財団賞 ～

2002年度に創設以来、交通事故・各種災害の防止等と高齢者福祉の2つの分野で、優れた著作・論文を『三井住友海上福祉財団賞』または『三井住友海上福祉財団奨励賞』として表彰しています。

これらも毎年4月1日～6月末の期間で募集し、研究助成の選考と同様のプロセスで選考しています。なお、受賞者に対しては副賞として財団賞50万円・財団奨励賞30万円もあわせて贈呈しています。

また、平成27年度(2015年度)は当財団設立40周年であったため、『設立40周年記念特別賞』(副賞100万円)も贈呈しました。

財団賞等の授賞実績 <平成27年度(2015年度)～令和6年度(2024年度)>

	40周年記念特別賞	財団賞	財団奨励賞	合計
交通事故・各種災害の防止等分野	1件	1件	7件	9件
高齢者福祉分野	3件	3件	9件	15件
合計	4件	4件	16件	24件

(3) 普及・啓発助成

交通事故・各種災害の防止等分野で、財団設立当初から行っている助成事業です。設立以来継続しているのは「交通安全フォーラム」の開催費用の助成で、内閣府や開催地となる地方自治体(都道府県等)と共同で毎年実施しています。また、春・秋の全国交通安全運動のポスター作製費用も助成しており、このポスターは三井住友海上火災保険株式会社の全国の拠点にも掲示され、連携して普及啓発活動を行っています。さらに、警察庁等と「交通安全ファミリー作文コンクール」を主催しており、助成するだけでなく、当財団の一部役員もコンクールの審査に協力しています。

全国交通安全運動
ポスター(2024年秋)



交通安全ファミリー作文
コンクールポスター(2015年)



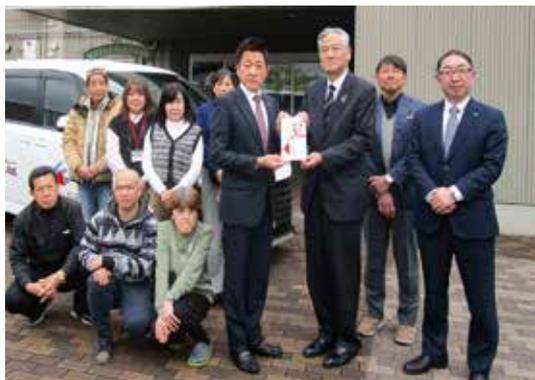
交通安全フォーラム
パンフレット(2022年)



(4) 施設・事業助成

高齢者福祉分野において平成3年（1991年）以来実施しており、社会福祉法人などの非営利法人（医療法人除く）を対象に全国のデイケアサービス利用者の送迎用福祉車両の購入費用の助成を行ってまいりました。1件100万円かつ購入費用の50%を限度に助成するスキームで、この10年間（2015年度～2024年度）で合計21台分・合計金額で1,988万円を助成してまいりました。

介護福祉車両贈呈式の様子



2025年2月 大阪府東大阪市



2023年4月 奈良県高取町



2022年7月 石川県白山市



2023年9月 大阪府大阪市

V. 直近 10 年間の助成事業一覧

<平成 27 年度(2015 年度)～令和 6 年度(2024 年度)>

※ 研究代表者の所属・役職名は、助成・賞の応募時あるいは研究結果報告書の提出時のものを記載しています。

平成27年度 (2015年度)

(1) 交通事故・各種災害の防止等分野

① 研究助成

a. 国内

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)	
1	長野工業高等専門学校 電子制御工学科 助教	穴田 賢二	加齢による脳形状の変化が頭部外傷発生メカニズムに及ぼす影響に関する研究	180
2	茨城大学 教授	榊 守	視覚障がい者用「横断歩道白線認識装置」の開発	75
3	聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 助教	建木 健	脳損傷者の自動車運転時の注視行動の特性研究	48
4	広島大学大学院工学研究院 社会環境空間部門 准教授	布施 正暁	リスク評価に基づく危険物輸送の安全ガイドラインの作成	50
5	愛媛大学大学院 理工学研究科 教授	松村 暢彦	幼児二人同乗用自転車における思考発話法の交通安全効果に関する研究	75
6	東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専 攻母性看護学・助産学分野 博士課程	南谷 真理子	日本人妊婦の睡眠時無呼吸の実態と日中の眠気との関連 - 妊婦の自動車運転事故軽減にむけて -	140
7	安田女子大学看護学部 看護学科 (在宅看護学領域) 講師	森田 深雪	8.20 広島市土砂災害における訪問看護ステーションの課題に関する基礎的研究	35
8	中部大学人文学部 中部大学大学院国際人間学研究科 言語文化専攻 教授	ヤーッコーラ 伊勢井 敏子	高齢者にとっての最適な誘導信号音声に関する基礎研究	90
計 8 件			693	

b. 海外

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)	
9	Assistant Professor Computer Science Division, Faculty of Informatics, Maharakham University	Manasawee Kaenampornpan	Bringing Persuasive Design into the Development of Mobile Interactive Media for Road Safety Education in Young Children (年少児童向け道路交通安全教育のためのモバイル・インタラクティブ・メディア開発への Persuasive Design (説得力あるデザイン) の導入)	51
10	Assoc.Prof. Department of Mechanical Engineering, Faculty of Engineering, King Mongkut's University of Technology Thonburi	Pattaramon Jongpradist	Study on Frontal Impact Crashworthiness for Passenger Bus Manufactured in Thailand (タイで製造される乗用バスに関わる正面衝突時の耐衝撃性の研究)	51
11	Lecturer Department of Civil Engineering, Faculty of Engineering, Kasetsart University	Saroch Boonsiripant	Motorway Incidents Response Prioritization Models (高速道路における事故対応の優先順位モデル)	51
12	Lecturer Faculty of Architecture,Urban Design and Creative Arts, Maharakham University	Pondej Chaowarat	Participatory Action Research to Promote Bike to School (自転車通学を奨励するための参加型行動調査)	51
13	Senior Lecturer Department of Chemical & Bio-molecular Engineering, National University of Singapore	Lim Wee Chuan Eldin	Engineering Analysis of Implementing Pedestrian Scramble Crossing at Traffic Junctions in Singapore (シンガポールの交差点における歩行者用スクランブル横断歩道の工学的分析)	84
計 5 件			288	

② 設立40周年記念特別賞

授賞先	助成年度	題名	副賞(万円)
一般財団法人 日本自動車研究所 安全研究部 主任研究員 大谷 亮	2010 年度	役割演技法を用いた交通安全教育による児童の自己評価スキルの変化と行動変容に関する研究	100
	2014 年度	地域住民が子どもの交通安全教育に参加することによる態度変容に関する研究	
計 1 件			100

③ 普及・啓発助成

No.	助成先	助成内容	助成金額(万円)
1	(一財)日本交通安全教育普及協会	「交通安全ファミリー作文コンクール」募集ポスター作成費用他	61
2	内閣府	「秋の全国交通安全運動」ポスター作成配付費用	7
3	交通安全フォーラム推進協議会	「交通安全フォーラム」協賛	25
4	内閣府	「春の全国交通安全運動」ポスター作成配布費用	7
計4件			100

(2) 高齢者福祉分野

① 研究助成

a. 国内

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)
1	東京大学大学院 医学系研究科循環器内科学 講師 赤澤 宏	アンジオテンシンⅡ受容体阻害による健康寿命促進の機序解明	150
2	福岡県立大学 研究員 網野 薫菊	認知症患者の言語様相に見る多様性とアイデンティティ：患者のQOL向上に向けた介護現場における言語・非言語統合コミュニケーション分析	90
3	埼玉医科大学ゲノム医学研究センター 遺伝子情報制御部門 講師 池田 和博	要介護リスクを高める骨粗鬆症に対するミトコンドリア呼吸鎖を標的とした診断・治療・予防法の開発	90
4	東京大学大学院 医学系研究科加齢医学講座 助教 石井 正紀	超音波検査による食道・胃運動の評価と肺炎リスクの相関に関する検討	110
5	新潟県立看護大学 看護学部 講師 井上 智代	農村部における高齢者の健康に資するソーシャル・キャピタル指標の開発	80
6	東京大学大学院 情報理工学系研究科 准教授 大西 立顕	ビッグデータと超並列計算を活用した全国の高齢者一人一人の生活環境の実証的評価	100
7	名古屋学芸大学 管理栄養学部 教授 岡田 希和子	健常高齢者の長期縦断疫学研究 (Nagoya Longitudinal Study for Healthy Elderly:NLS-HE)	180
8	日本保健医療大学 看護学科 教授 小澤 芳子	認知症高齢者が在宅で最期を迎えるための家族への支援	90
9	広島大学大学院 医歯薬保健学研究院分子細胞情報学 准教授 金子 雅幸	γ -セレクトアゼ特異的に作用するユビキチンリガーゼを標的としたアミロイド β 抑制薬の基盤研究	140
10	順天堂大学 医学部呼吸器内科 准教授 塩田 智美	アルツハイマー病発症における睡眠時無呼吸症候群の関与	120
11	名古屋市立大学大学院薬学研究科 講師 鈴木 亮	アレルギー親和性に着目した高齢者アレルギー疾患の原因究明と診断法の開発	120
12	東京医療保健大学 准教授 瀬戸 僚馬	骨折患者の早期社会復帰を実現する看護・介護ケアバスの開発	90
13	千葉大学大学院薬学研究科 分子心血管薬理学 教授 高野 博之	心不全の在宅医療を実践できる薬剤師の育成	100
14	千葉大学大学院医学研究院 細胞治療内科学講座 准教授 竹本 稔	遺伝性早老症ウェルナー症候群における骨格筋量、筋力、内臓脂肪蓄積が日常生活活動度や生活の質に与える影響、並びに栄養・運動療法による介入効果に関する検討	100
15	神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 准教授 田畑 智博	フォアキャスト的アプローチを用いた高齢者社会に相応しい将来のごみ処理サービスの提案に関する研究	100
16	九州大学人間環境学府 行動システム専攻 博士後期課程 陳 三妹	地域在住高齢者における認知機能障害と身体的フレイルの交互作用が要介護認定に与える影響についての検討：4年間の追跡研究	100
17	熊本大学大学院 生命科学研究部 総合医薬科学部門 薬物治療設計学講座 生体機能薬理学分野 講師 長谷川 雄	アルツハイマー病における介護負担軽減を目指したサルコペニアに対する治療戦略	80
18	東京大学大学院医学系研究科 修士課程2年 福井 千絵	長期介護施設に入居している認知症をもつ人の家族介護者における「介護に関する家庭内の意見の相違」尺度の日本語版の開発	30
19	筑波大学 システム情報系 准教授 藤井 さやか	高齢化する市街化調整区域内住宅団地の土地利用規制制約の実態と柔軟化に関する研究	100
20	石川工業高等専門学校 機械工学科 准教授 藤岡 潤	感圧導電性編物による体位計測シーツの開発および褥瘡予防効果の検証	100

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)	
21	東京大学医学部附属病院 輸血部 助教	正本 庸介	高齢者骨髄異形成症候群患者の薬物治療法の発展へ向けたアザシジン耐性メカニズムの解析	100
22	和歌山県立医科大学 医学部 准教授	松崎 伸介	アルツハイマー病発症機構におけるタンパク質 SUMO 化の意義の解明	120
23	東北大学大学院医学系研究科 循環器内科学分野 EBM 開発学寄附講座 講師	三浦 正暢	慢性心不全患者における介護予防の必要性に関する経年的変化の検討	100
24	九州大学大学院医学研究院 神経解剖学 講師	吉田 史章	嚥下機能を再建するモバイルブレインマシンインターフェースの開発	150
25	東京都健康長寿医療センター研究所 研究員	涌井 智子	家族介護負担度の日常データ把握による介護バーンアウト防止策の検討	100
計 25 件			2,640	

b. 海外

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)	
26	Consultant Singapore General Hospital	Wong Ting Hway	Grip-torque and pinch-torque hand strength of Older Adults after Falls: A pilot study exploring the use of grip strength to establish normative data and as a marker of frailty in geriatric patients presenting with falls and other non-fall reasons in a tertiary hospital (転倒事故後における高齢者の手の握りトルクと摘みとり強度: 転倒並びに非転倒を原因とする第三次救急医療機関の高齢患者における握り強さの効用について標準データを整え、老化の指標とするための予備的研究)	84
27	Head of Programme School of Human Development and Social Service, SIM University	Steve Kwok-Leung Chan	Housing for Seniors in Singapore: Town planning and housing programme enhancing supporting networks of ethnic minority ageing-in-place (シンガポールにおけるシニアのための住宅: 少数民族の在宅高齢者への支援ネットワークを強化する都市計画と住宅プログラム)	84
28	Nurse Clinician(Research) Singapore General Hospital	Fazila Abu Bakar Aloweni	Resiliency in Caregiving: Older Spouses' Experience in Singapore (介護におけるレジリエンス: シンガポールの高齢配偶者の経験から)	47
計 3 件			215	

② 設立40周年記念特別賞

授賞先	助成年度	題名	副賞(万円)
東京大学大学院 医学系研究科 加齢医学 教授 秋下 雅弘	2008 年度	男性ホルモンの低下が虚弱高齢者の生命および機能予後に与える縦断臨床研究	100
名古屋大学大学院 医学系研究科 地域在宅医療学・老年科学 教授 葛谷 雅文	2004 年度	訪問介護サービスの在宅虚弱高齢者の予後ならびに在宅療養の継続性に与える効果に関する研究	100
	2005 年度	訪問介護サービスの在宅虚弱高齢者の予後ならびに在宅療養の継続性に与える効果に関する研究 (II)	
	2006 年度	訪問介護サービスの在宅虚弱高齢者の予後ならびに在宅療養の継続性に与える効果に関する研究 (III)	
京都大学大学院 人間・環境学研究科 認知・行動科学講座 教授 神崎 素樹	2004 年度	高齢者のバランス能力の減退は力調節安定性の低下に起因するか?	100
	2006 年度	姿勢動揺に応じた下肢筋群の適切な活動様式に基づくバランス能力評価法の開発~高齢者転倒予防のための神経生理学的観点からのスクリーニング検査~	
	2008 年度	足裏感覚へのノイズ刺激が高齢者の立位バランス能力を向上させる~体性感覚情報に着目した高齢者転倒の予防対策の確立に向けて~	
	2011 年度	セントラルパターンジェネレータに着目した高齢者の歩行リズムの解明~高齢者の転倒予防の確立に向けて~	
計 3 件			300

③ 施設・事業助成

No.	助成先	助成内容	助成金額(万円)
1	社会福祉法人 尾道さつき会	介護福祉車両購入費用 (広島県尾道市)	100
計 1 件			100

平成28年度（2016年度）

（1）交通事故・各種災害の防止等分野

① 研究助成

a. 国内

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)	
1	名古屋大学大学院 医学系研究科 発達・老年精神医学分野 講師	岩本 邦弘	精神障害者の自動車運転技能に関する研究：双極性障害を対象とした運転シミュレータによる実証的検証	80
2	(一財)日本自動車研究所 安全研究部 主任研究員	大谷 亮	交通安全に関する子どもの自己評価の発達と教育効果に関する研究	80
3	日本医科大学千葉北総病院 救命救急センター 病院講師	齋藤 伸行	高齢交通事故患者の長期機能予後に関する前向き調査	130
4	横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 准教授	田中 伸治	潜在的な事故誘発危険性を有する路上駐車を対象とした市民参加型可視化システムの構築	100
5	高知大学教育研究部 人文社会科学系教育学部門 講師	西脇 芳典	交通事故鑑定に資する光輝材を用いた自動車塗膜片の新規車種特定法の開発	100
6	大同大学工学部 講師	樋口 恵一	高齢者講習結果を活用した高齢ドライバーの免許返納意向・交通事故に影響する要因分析	50
7	豊橋技術科学大学大学院 工学研究科 助教	松尾 幸二郎	タクシー運賃補助制度による高齢者免許返納の促進を通じた交通死亡事故の削減効果に関する研究	80
8	秋田大学大学院 理工学研究科 教授	水戸部 一孝	自転車・自動車のインタラクション可能な運転体験用シミュレータの構築と交通事故誘発リスクの検証	100
9	中部大学応用生物学部 環境生物科学科 教授	南 基泰	高速道路における衝突事故防止のための野生動物の侵入要因解明と防止対策	80
計9件			800	

b. 海外

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)	
10	Associate Professor Department of Transportation Engineering, School of Engineering, Suranaree University of Technology	Vatanavongs Ratanavaraha	Analysis of driver and passenger injuries severity in rear-end crashed factors for Thai highway using Structural equation modeling (タイ高速道路での追突事故によるドライバーと搭乗者の傷害程度についての構造方程式モデリングを用いた分析)	50
11	Mission Faculty of Nursing, Asia Pacific International University	Petcharat Eiamla-or	Factors predicting clinical outcomes in patients sustain road traffic injury during the emergence phase. (交通事故で受傷した患者の緊急対応期における臨床転帰を予測する因子)	50
12	Specialist Foreign Lecturer Faculty of Architecture, Chiang Mai University(FACMU)	Zi Liang Huang	Creating a safer urban environment for tourist cyclists-a design study in Chiang Mai, Thailand. (旅行サイクリストのためのより安全な都市環境創り - タイ・チェンマイにおけるデザイン研究)	50
13	Lecturer School of Information Technology, Mae Fah Luang University	Surapong Uttama	Real-Time Traffic Light State Detection and Prediction for Driver Assistance (ドライバー支援のためのリアルタイムでの交通信号状況の探知と予測)	50
14	PhD Candidate Nanyang Technological University	Maria Cecilia Rojas Lopez	Cyclist's visual behavior and its effects on walking/cycling trips (サイクリストの視覚動作と歩行/サイクリングへの影響)	81
計5件			281	

② 著作・論文表彰

著者	題名	副賞(万円)
早稲田大学スポーツ科学学術院 日本学術振興会 特別研究員	桜井 良太 【論文・財団奨励賞】 地域在住高齢者における自転車関連事故発生率とその傷害率 - 潜在的傷害事故の把握に向けた検討	30
計1件		30

③ 普及・啓発助成

No.	助成先	助成内容	助成金額(万円)
1	(一財)日本交通安全教育普及協会	「交通安全ファミリー作文コンクール」募集ポスター作成費用他	56
2	内閣府	「秋の全国交通安全運動」ポスター作成配付費用	7
3	交通安全フォーラム推進協議会	「交通安全フォーラム」協賛	25
4	内閣府	「春の全国交通安全運動」ポスター作成配布費用	7
計4件			95

(2) 高齢者福祉分野

① 研究助成

a. 国内

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)	
1	東京都健康長寿医療センター研究所 老化制御研究チーム 健康長寿ゲノム探索研究 研究員	東 浩太郎	骨免疫・筋免疫を介するエストロゲンの骨粗鬆症・サルコペニア予防及び治療効果の解明	150
2	聖マリアンナ医科大学 解剖学機能組織 教授	池森 敦子	筋骨連関に着目した有酸素運動による高齢期慢性腎臓病の腎保護作用の検討	100
3	熊本大学医学部附属病院 神経精神科 助教	石川 智久	地域在住高齢者の生活機能低下（フレイル）と認知機能低下との関連に関する大規模疫学研究	100
4	東京医科歯科大学 脳神経外科 講師	稲次 基希	高齢者脳神経疾患における超急性期からの積極的歯科介入の有用性の検討と、慢性期への連続した介入システムの確立	100
5	東京都健康長寿医療センター 副部長	上住 聡芳	骨格筋内在性の間葉系前駆細胞を標的としたサルコペニアの予防・治療法開発	150
6	京都大学大学院医学研究科 臨床神経学 助教	江川 斉宏	脳内グリア前駆細胞の分化機構の解明と認知症への臨床応用	100
7	筑波大学体育系 准教授	大蔵 倫博	独居生活が高齢者の身体機能・認知機能・抑うつに及ぼす影響に関する縦断疫学研究	120
8	国立がん研究センター 先端医療開発センター 精神腫瘍学開発分野 分野長	小川 朝生	認知症の身体合併症に対する治療方針を話し合う際の意思決定を支援するプログラムの開発	100
9	山口東京理科大学 共通教育センター 准教授	木村 良一	アルツハイマー病に対する脳内アミリン受容体阻害剤の効果	100
10	東京医科大学 組織・神経解剖学分野 助教	篠原 広志	アルツハイマー型認知症への応用を目指した海馬神経幹細胞の形成メカニズムの解明	100
11	東京大学 保健・健康推進本部 助教	田中 君枝	多様な血管病変における血管外膜微小血管増殖の調節機構の解明	100
12	東京都健康長寿医療センター研究所 老化機構研究チーム 研究員	津元 裕樹	シアル酸結合様式を区別したN結合型糖鎖解析による健康長寿マーカーの開発	150
13	千葉大学医学部附属病院 整形外科 講師	中村 順一	高齢者大腿骨近位部骨折の骨折リスク予測を目的とした新鮮凍結屍体における有限要素解析と力学試験	100
14	佐賀大学 医学部循環器内科 教授	野出 孝一	大学病院在宅医療支援部を活用した心不全連携機能の構築	120
15	東京都医学総合研究所 認知症・高次脳機能研究分野 認知症プロジェクト 主席研究員	細川 雅人	アルツハイマー病の新たな発症メカニズムの解明と新規治療薬の創出	140
16	東北大学病院 循環器内科学 院内講師	松本 泰治	超高齢社会で増加する高齢者・慢性心不全患者の心臓と脳の連関 - フレイル・認知機能・心理の治療前後の変化の検討 -	140
17	東京都健康長寿医療センター研究所 老化機構研究チーム（プロテオーム） 研究副部長	三浦 ゆり	大規模長期縦断調査とプロテオミクス解析による初期フレイルのバイオマーカー探索	200
18	就実大学 薬学部 教授	森 秀治	Damps 遮断に基づいた組織モデリング病態の新規制御法の創成	100
19	奈良県立医科大学 眼科学講座 学内講師	吉川 匡宣	緑内障が生体リズムに及ぼす影響 - 高齢者 100 名の前向きコホート研究ベースライン横断解析 -	100
20	東京大学医学部附属病院 ロコモ予防学講座 特任教授	吉村 典子	長期観察高齢者住民コホートを用いたフレイルとロコモの実態と予防に関する研究	140
計 20 件			2,410	

b. 海外

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)
21	Adjunct Associate Professor, Duke NUS Medical School, Singapore; SingHealth Polyclinics	Tan Ngai Chuan MUSCLE-DM Study: MUScle Strength in Community Living Elderly with Diabetes Mellitus (糖尿病疾患の高齢居住者における筋力に関するスタディー)	81
22	Dept of Surgery, Yong Loo Lin School of Medicine, National University of Singapore Assistant Professor	Rufaihah Binte Abdul Jalil Diagnostic potential of LyP-1 Peptide Aptamer for the Detection of Atherosclerotic Plaque (アテローム性動脈硬化症のプラークについてのLyP-1ペプチドアプタマーの診断可能性)	81
23	PhD, Principal Clinical Psychologist Department of Neurology, Singapore General Hospital	Kinjal Doshi Singapore Activities of Daily Living Inventory (S-ADL-I) (シンガポールにおける日常生活上の活動目録)	65
計3件			227

② 著作・論文表彰

著者	題名	副賞(万円)
東京都医学総合研究所 精神行動医学研究分野 心の健康プロジェクト 精神保健看護研究室 主席研究員・副室長	中西 三春 【論文・財団奨励賞】 Features of the Japanese national dementia strategy in comparison with international dementia policies: how should a national dementia policy interact with the public health and social care systems? 日本の国家的な認知症戦略における、国際的な認知症政策と比較しての特徴：国家の認知症政策はどのように公的な保健医療および社会サービスの体制と連関するべきか？	30
計1件		30

③ 施設・事業助成

No.	助成先	助成内容	助成金額(万円)
1	社会福祉法人 ケアフル亀山	介護福祉車両購入費用(三重県亀山市)	67
2	社会福祉法人 西日本至福会	介護福祉車両購入費用(福岡県北九州市)	100
3	社会医療法人 友愛会	介護福祉車両購入費用(沖縄県豊見城市)	100
計3件			267

平成29年度(2017年度)

(1) 交通事故・各種災害の防止等分野

① 研究助成

a. 国内

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)
1	千葉工業大学 創造工学部都市環境工学科 教授	赤羽 弘和 大型貨物車の都市高速道路側壁への擦過痕形成時挙動の観測システムの構築と安全対策への適用検討	100
2	目白大学 保健医療学部理学療法学科 専任講師	安心院 朗子 ハンドル形電動車いすで走行している高齢者の周辺状況の認知と危険予測	100
3	鹿児島大学大学院 歯学総合研究科小児歯科学分野 准教授	岩崎 智憲 睡眠無呼吸時の上気道を予測した睡眠時無呼吸症候群の原因部位の特定方法の確立	100
4	帝京大学 文学部社会学科 准教授	浦野 慶子 訪日外国人旅行者に向けた交通ルールの効果的な周知方法の開発	30
5	東京都健康長寿医療センター研究所 研究員	大須賀 洋祐 新規簡易型認知パフォーマンステストと自動車運転能力関連指標との関連 - 都市部在住後期高齢者を対象とした研究 -	100
6	信州大学医学部 メディカル・ヘルスイノベーション講座 特任教授	大橋 俊夫 手のひらの汗の高感度測定による居眠り防止を基本とした自動車安全運転補助技術の開発	100
7	筑波大学医学医療系 サイバニクス研究センター 准教授	國府田 正雄 交通事故による重度脊髄損傷に対する脊髄硬膜外電気刺激とHALRの組み合わせ療法による歩行再建：パイロットスタディ	150
8	東海大学 工学部土木工学科 准教授	鈴木 美緒 軽度認知症ドライバーにおける運転時過負荷状態の発現・収束メカニズムに関する研究	100
9	愛知淑徳大学 健康医療科学科 准教授	谷 伊織 中高齢ドライバーの免許返納を規定する意思決定モデルの検討	50
10	神奈川工科大学 創造工学部 准教授	吉満 俊拓 空気圧式プロテクタの開発	100
計10件			930

b. 海外

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)	
11	Assistant Professor Faculty of Informatics, Mahasarakham University	Manasawee Kaenampornpan	Participatory Design for Developing User Generated Content Mobile Application to Raise Traffic Safety Awareness in Senior Citizen (高齢者の交通安全意識の高揚に向けたユーザー制作コンテンツによるモバイルアプリケーション開発のための参加型デザイン)	53
12	Lecturer Faculty of Psychology, Chulalongkorn University	Harry Manley	Development and Validation of a Hazard Perception Test for Thai Drivers (タイにおけるドライバーのための危険認識テストの開発と有効性確認)	47
13	Nursing Instructor Boromarjonnani College of Nursing Phayao	Pratsani Srikan	Functional status assessment and retirement decision among senior Thai road users (タイにおける高齢の道路使用者 / 運転者における機能面の評価と運転をやめる決断)	48
14	Associate Professor, Department of Civil Engineering, Faculty of Engineering, Chulalongkorn University	Jittichai Rudjanakanoknad	An Experiment of Safe and Affordable Senior Citizen Shuttle Service System in Bangkok Suburb (バンコク郊外での安全で手頃な高齢者シャトル・サービス・システムの実験)	53
15	Lecturer School of Health Science, Mae Fah Luang University	Prapamon Seeprasert	School Vehicles Safety Assessment for Develop a Safety Practical Guideline,Chiang Rai Province (タイ・チェンラーイ県における通学用車両の安全評価と安全実務ガイドラインの開発)	53
16	Senior Staff Physician, Department of Emergency Medicine, KKH, Singapore	Chong Shu-Ling	Parental knowledge and beliefs on the use of child car restraints in Singapore: a qualitative study (チャイルドシートの使用に関する親の知識と信念の理解)	84
計6件			338	

② 著作・論文表彰

著者	題名	副賞(万円)	
実践女子大学人間社会学部 教授	松浦 常夫	【著作・財団賞】 高齢ドライバーの安全心理学	50
国立長寿医療研究センター 長寿政策科学研究部 部長	荒井 由美子	【著作・財団奨励賞】 認知症高齢者の自動車運転を考える家族介護者のための支援マニュアル：認知症高齢者の安全と安心のために（第二版）	30
計2件		80	

③ 普及・啓発助成

No.	助成先	助成内容	助成金額(万円)
1	(一財) 日本交通安全教育普及協会	「交通安全ファミリー作文コンクール」募集ポスター作成費用他	56
2	内閣府	「秋の全国交通安全運動」ポスター作成配布費用	6
3	交通安全フォーラム推進協議会	「交通安全フォーラム」協賛	25
4	内閣府	「春の全国交通安全運動」ポスター作成配布費用	6
計4件			93

(2) 高齢者福祉分野

① 研究助成

a. 国内

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)	
1	高知大学教育研究部医療学系 基礎医学部門遺伝子機能解析学講座 教授	麻生 悌二郎	BRI2/BRI3 を標的とするユビキチンリガーゼの機能阻害による新規アルツハイマー病治療薬の開発	120
2	東京大学大学院医学系研究科 生体防御腫瘍内科学講座 代謝・栄養病態学教室 助教	五十嵐 正樹	腸管内分泌細胞を起点とした老化制御ネットワークの同定	90
3	徳島大学大学院医歯薬学系研究部 口腔顎顔面矯正学分野 助教	井澤 俊	要介護リスクを高める骨粗鬆症に対するエピジェネティック代謝遺伝子 ASXL を標的とした診断・治療・予防法の開発	120
4	大阪市立大学大学院医学研究科 循環器内科学 准教授	泉家 康宏	骨格筋から分泌されるマイクロRNAの網羅的解析による、サルコペニアの新規治療標的の同定	140
5	東京都健康長寿医療センター研究所 福祉と生活ケア研究チーム 研究員	伊東 美緒	地域で生活する認知症高齢者の混乱を誘発する環境要因と対策	90
6	広島大学大学院 医歯薬保健学系研究科 歯周病態学教室 助教	加治屋 幹人	三次元間葉系幹細胞集塊を応用した骨再生細胞製剤の開発	120

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)	
7	久留米大学医学部 生理学脳神経機能部門本務・ 脳神経外科兼務 講師	菊池 清志	AMPK 活性化単糖による脳神経保護の研究 超高齢化社会における脳血管障害・頭部外傷の軽減と予防に向けた動物実験とその応用展開	150
8	杏林大学医学部 高齢医学 教授	神崎 恒一	認知症高齢者の終末期の病態解明とアプローチ法の確立	200
9	京都大学大学院 人間・環境学研究所 教授	神崎 素樹	筋シナジーの観点から高齢者の歩行動作の不安定性を捉える～高齢者の転倒予防の確立に向けて～	100
10	九州歯科大学 分子情報生化学分野 教授	古株 彰一郎	骨格筋に発現するうま味受容体を介したアミノ酸シグナルが担う骨格筋代謝制御機構	50
11	東京大学大学院医学系研究科 助教	古屋 淳史	高齢者におけるクローン性造血と造血器腫瘍化メカニズムの解明	140
12	広島大学大学院医歯薬保健学研究所 ストレス分子動態学寄附講座 准教授	齋藤 敦	小胞体ストレス依存的に産生される小ペプチド断片の制御による包括的疾患治療法開発	160
13	関西学院大学理工学部 人間システム工学科 教授	嵯峨 宣彦	筋力維持・回復機能を持つ食事支援システムの開発	120
14	新渡戸記念中野総合病院 神経内科 部長	融 衆太	おだやかな看取りを明日に活かすみち-地域包括ケアシステムの医学的深化をめざす病理解剖の試み-	75
15	慶應義塾大学医学部 精神神経科学教室 専任講師	新村 秀人	東京都都市部における地域在住 85 歳以上の超高齢者のメンタルヘルス疫学的調査	120
16	大阪大学大学院 医学系研究科公衆衛生学 招聘准教授	野口 緑	救急搬送要請高齢者の社会経済的要因と必要な医療保険外サービスに関する研究	120
17	大阪大学蛋白質研究所 分子発生学研究室 教授	古川 貴久	高齢者の視覚をまもる網膜変性予防法の開発	120
18	国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 室長	北條 浩彦	老化に伴う筋肉量低下を遅延・阻止させる機能性 RNA を用いた新規治療薬の開発	75
19	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 腎・免疫・内分泌代謝内科学 助教	松本 佳則	骨粗鬆症の克服を目指した骨芽細胞制御ネットワークの解明	140
20	東京大学 高齢社会総合研究機構 客員研究員	三浦 貴大	高齢者の運転能力に関する認知機能の自己診断ツールの開発・評価	50
21	東北大学加齢医学研究所 教授	山家 智之	高齢者の嚥下・蠕動機能を非侵襲的に定量診断する解析装置の世界初の発明	200
計 21 件			2,500	

b. 海外

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)	
22	Professor National University of Singapore	Tan Kok Kiong	Hearing Aid and Non-Intrusive Fall Detection Monitoring System for the elderly (高齢者のための補聴器と非干渉型の転倒探知モニタリングシステム)	83
23	Senior Medical Social Worker Singapore General Hospital	Lim Zhiying	What dose co-morbidity and adherence to treatment regimen mean to elderly with differing level of physical dependency (異なる依存レベルの高齢者にとっての併存疾患と治療方針への積極参加の重要性)	75
24	Department of Urology, Singapore General Hospital	Neo Shu Hui	VALOUR: Evaluation of a Novel Visual Analogue Uroflowmetry score (VAUS) to Support Shared Decision-Making for Men with Lower Urinary Tract Symptoms and their Primary Care Physicians (下部尿路症の高齢者における視覚アナログ尿流測定法スコア：初期医療部門における下部尿路症の評価のための有効手段)	84
計 3 件			242	

② 著作・論文表彰

著者	題名	副賞(万円)	
椋山女子園大学人間関係学部 教授	株本 千鶴	【著作・財団奨励賞】 ホスピスで死にゆくということ-日韓比較からみる医療化現象	30
計 1 件		30	

③ 施設・事業助成

No.	助成先	助成内容	助成金額(万円)
1	社会福祉法人 平塚あざひ会	介護福祉車両購入費用(神奈川県平塚市)	85
2	社会福祉法人 かすかみ会	介護福祉車両購入費用(石川県小松市)	100
3	社会福祉法人 すみれ福祉会	介護福祉車両購入費用(香川県高松市)	100
4	社会福祉法人 須坂市社会福祉協議会	介護福祉車両購入費用(長野県須坂市)	100
5	社会医療法人 尾張健友福祉会	介護福祉車両購入費用(愛知県一宮市)	99
計5件			484

平成30年度(2018年度)

(1) 交通事故・各種災害の防止等分野

① 研究助成

a. 国内

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)
1	日本保健医療大学 理学療法学科 助手 浅見 正人	認知機能低下がハンドル形電動車椅子の運転技能に与える影響の解明	70
2	千葉大学 フロンティア医工学センター 特任助教 大西 章也	高齢ドライバーの注意に関する簡易検査方法の開発	50
3	第一工業大学 工学部機械システム工学科 教授 仮屋 孝二	自動車用前照灯における照射方向の検査基準に関する研究	80
4	東京大学大学院 新領域創成科学研究科 准教授 小竹 元基	MCIを内包する高齢ドライバーの不適切な判断の特徴と神経心理学的特性に基づく教育方策	150
5	(公財)豊田都市交通研究所 主席研究員 西堀 泰英	高齢運転者を対象とした後付け型の警報による運転支援システムの効果及び普及方策の検討	100
6	千葉大学医学部付属病院 整形外科 助教 牧 聡	神経微細構造および機能画像による脊髄損傷患者の評価:新たなイメージングバイオマーカーの創出	80
7	(公財)豊田都市交通研究所 主席研究員 三村 泰広	自転車の通行空間整備過渡期における都市・道路政策のあり方に関する研究	100
8	兵庫県立大学大学院 工学研究科 准教授 山添 大丈	歩き方の違いに着目した歩行者の内部状態推定と行動予測	100
9	芝浦工業大学 システム理工学部 准教授 渡邊 大	人体頭部多層構造を模した超高性能頭部保護デバイス開発のための基礎解析	70
計9件			800

b. 海外

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)
10	Assistant Professor ASEAN Institute for Health Development, Mahidol University Cheerawit Rattanapan	An examination of the factors that influence young drivers' willingness to speed and text while driving for sustainable encouragement of safety driving in Thailand (タイにおける安全運転の持続的促進に向け、若いドライバーのスピードと運転中の携帯メールへの拘りに影響を及ぼす要因の調査)	53
11	Research Assistant, Department of Transportation Engineering, School of Engineering, Suranaree University of Technology Thanapong Champahom	Impact of Branch office of highway on Traffic accidents and fatalities:Multilevel models approach (交通事故と死亡災害における高速道路管理組織の影響度:多層モデルによるアプローチ)	53
12	Lecturer Transportation Engineering Division, King Mongkut's University of Technology Thonburi Vasin Kiattikomol	A Study for Behavior and Traffic Law Compliance of Motorcycles at Crosswalks (横断歩道におけるオートバイの運転挙動と交通規則遵守のための研究)	53
13	Professor Department of Civil Engineering, Chulalongkorn University Kasem Choocharukul	Road Safety Assessment and iRAP Star Ratings for High-risk Schools in Bangkok (バンコクにおける交通事故リスクの高い学校に対する道路安全性評価とiRAP星評価格付け)	53
14	Graduate student Department of Transportation and Communication Management Science & Institute of Telecommunications Management, National Cheng Kung University 蕭至良 Hsiao,Chih-Liang	Design of a Usage-Based Insurance Platform for Evaluating Driver's Risk by Big Data Analysis (ビッグデータ分析によるドライバーのリスク評価のための利用ベース自動車保険プラットフォームの設計)	75
15	Graduate student Program of Transportation Science, Department of Transportation Management, Tamkang University 張瑞予 Chang,Jui-Yu	Data Linkage of Traffic Crash Datasets and Hospital Datasets for Investigating Influential Factors Affecting Injury Severity of Aged Motorcyclists (高齢オートバイ運転者の傷害程度に影響する要因を調査するための交通事故データセットと病院データセットのデータ結合)	74

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)	
16	Graduate student Department of Transportation & Logistics Management, National Chiao Tung University	唐煥峻 Tang Huan-Chun	The Accuracy of Traffic Signal Phases Switching Time Anchoring (交通信号状態の切り替え時間設定の精度)	75
17	Professor Graduate Institute of Injury Prevention and Control, College of Public Health, Taipei Medical University	白志偉 Chih-Wei Pai	Population-based case-control study of the effect of sun glare on pedestrian fatalities in Taiwan (台湾での歩行中の死亡事故における太陽の眩しさの影響についての集団ベース症例対照研究)	75
計8件			511	

② 著作・論文表彰

該当なし

③ 普及・啓発助成

No.	助成先	助成内容	助成金額(万円)
1	(一財)日本交通安全教育普及協会	「交通安全ファミリー作文コンクール」募集ポスター作成費用他	59
2	内閣府	「秋の全国交通安全運動」ポスター作成配付費用	6
3	交通安全フォーラム推進協議会	「交通安全フォーラム」協賛	25
4	内閣府	「春の全国交通安全運動」ポスター作成配布費用	5
計4件			95

(2) 高齢者福祉分野

① 研究助成

a. 国内

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)	
1	東京都健康長寿医療センター研究所 研究部長	石崎 達郎	多剤処方が地域在住高齢者の身体機能・認知機能・精神的健康状態に及ぼす影響	100
2	帝京大学 医学部生理学講座 講師	磯尾 紀子	アルツハイマー病におけるエクソソームの輸送機構の解明・治療への応用とバイオマーカー探索	120
3	札幌医科大学附属産学・地域連携センター 特任准教授	板垣 史郎	病室不快臭の科学分析に基づく入院高齢者の生活環境改善に関する基礎研究	100
4	藍野大学 医療保健学部看護学科 助教	岩佐 由美	パーキンソン病看護の標準化に向けた訪問看護行為の可視化	45
5	東京都健康長寿医療センター研究所 老年病態研究チーム筋老化再生医学 研究員	上住 円	老化血管および神経筋接合部に異常蓄積する MFG-E8 の機能解析を通じたサルコペニアの発症機序解明	160
6	東京大学大学院医学系研究科 博士課程	齋藤 弓子	長期療養施設におけるケアの質保証システムの構築：質指標の開発とスタッフ QOL 向上への支援	120
7	東京医科大学 組織・神経解剖学分野 講師	篠原 広志	アルツハイマー型認知症治療法開発を目指したゲノム編集による海馬ニューロン新生	100
8	東京都健康長寿医療センター研究所 福祉と生活ケア研究チーム	島田 千穂	要介護状態を起点とした高齢者の機能変化の可視化と臨床的将来予測の職種間比較	120
9	名古屋市立大学大学院薬学研究科 講師	鈴木 良明	Ca ²⁺ マイクロドメイン構成分子群を標的とした変形性関節症の新規治療法の開発	120
10	東京大学大学院医学系研究科 講師	瀧本 英樹	イタコン酸が PERK シグナリングを介して心臓老化を改善する機序の解明	160
11	広島大学大学院 総合科学研究科 准教授	田中 亮	人工知能 (AI) を使った新しい歩行年齢推定モデルの作成	140
12	九州大学大学院 総合理工学研究院 教授	谷本 潤	季節性インフルエンザ感染から高齢者を守る先制的予防接種の公的補助スキームに関する社会設計	60
13	神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 准教授	田畑 智博	高齢者世帯の家計・住まい方とエネルギー消費に関する実態調査	110
14	京都大学大学院医学研究科 准教授	田原 康玄	全人的コホート研究によるサルコペニアのリスクスコア開発	120
15	東京都健康長寿医療センター研究所 研究員	津元 裕樹	糖鎖を利用した健康長寿マーカーの開発	120
16	東京大学医学部附属病院 腎臓・内分泌内科 病院講師	西 裕志	高齢者の腎排泄能低下がサルコペニアに与える影響	120

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)	
17	東京都健康長寿医療センター研究所 研究員	平山 亮	介護施設における性的マイノリティ高齢者の受入態勢の整備・向上に関する研究	110
18	国立病院機構東京病院 臨床研究部 部長	古川 宏	高齢発症関節リウマチ患者に特異的な遺伝要因の探索	75
19	広島大学病院 未来医療センター 講師	味八木 茂	医業ビッグデータとフェノタイプスクリーニングによる変形性関節症治療薬の探索	120
20	国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 部長	村松 里衣子	加齢による脳白質病変の発症メカニズムの解明	120
21	奈良県立医科大学 疫学・予防医学講座 助教	山上 優紀	身体活動リズムとサルコペニア・フレイルの関連	160
計 21 件			2,400	

b. 海外

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)	
22	Senior Consultant, National Cancer Centre Singapore (NCCS)	Ravindran Kanesvaran	Comprehensive Geriatric Assessment Programme - Optimizing cancer care for elderly patients (包括的な老人病評価プログラム - 高齢がん患者のケア最適化)	82
23	Graduate Student, National University of Singapore	Elisa Marie Crombie	Role of chronic activation of muscle mTORC1-induced sarcopenia and its effects on muscle regeneration and myogenic differentiation of muscle stem cells (筋肉 mTORC1 によって誘発されたサルコペニアの長期活性化の役割と筋再生と筋肉幹細胞の筋原性分子へのその影響)	82
24	Singapore General Hospital	Wong Seng Mun	Developing an automatic beverage thickening device for elderly with swallowing impairment (嚥下障害の高齢者のための自動飲料濃縮装置の開発)	82
25	PhD Student, SR Nathan School of Human Development, Singapore University of Social Sciences	Ambercyce Ang Xing Yee	Integrated Community Support for People with Dementia (認知症の人に対する統合型のコミュニティサポート)	75
計 4 件			321	

② 著作・論文表彰

著者	題名	副賞(万円)	
桜美林大学大学院 老年学研究科 教授	白澤 政和	【著作・財団賞】 ケアマネジメントの本質 - 生活支援のあり方と実践方法	50
奈良県立医科大学 県民健康増進支援センター 特任准教授	富岡 公子	【論文・財団奨励賞】 Association Between Social Participation and 3-Year Change in Instrumental Activities of Daily Living in Community-Dwelling Elderly Adults (地域在住高齢者における社会参加と3年後の手段的自立との関連)	30
計 2 件		80	

③ 施設・事業助成

No.	助成先	助成内容	助成金額(万円)
1	社会福祉法人 美咲町社会福祉協議会	介護福祉車両購入費用 (岡山県久米郡美咲町)	78
2	社会福祉法人 秀幸福社会	介護福祉車両購入費用 (大阪府茨木市)	100
3	社会福祉法人 美楽会	介護福祉車両購入費用 (岩手県奥州市)	100
計 3 件			278

令和元年度 (2019年度)

(1) 交通事故・各種災害の防止等分野

① 研究助成

a. 国内

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)	
1	名古屋大学未来社会創造機構 研究員	稲上 誠	ヘッドマウントディスプレイを用いた運転リスク評価テストの開発および教育への活用	100
2	愛媛大学 教育学部 講師	井上 昌善	地域の安全を担う市民育成を目指す教育プログラムの開発 - 「警ら箱」の教材化を事例として -	50
3	早稲田大学 理工学術院総合研究所 准教授	亀崎 允啓	ドライバー・コンピテンシー・アセスメント・システム (D-CAS) の実現に向けて: ドライバーの状況認識推定システムの開発	120

No.	研究代表者		研究課題	助成金額(万円)
4	東京科学大学大学院 工学院システム制御系 助教	倉元 昭季	単眼カメラベースの3次元人体姿勢推定に基づく市街地交通環境における歩行者の行動予測システム	100
5	神戸市立工業高等専門学校 都市工学科 准教授	小塚 みすず	重度身体障がい者の介護者を伴う旅行の企画・実行プロセスと交通配慮事項に関する基礎的研究	50
6	東京大学医学部附属病院 検査部 講師	代田 悠一郎	アクセル・ブレーキ踏み間違い防止策提案に向けた、サブリミナル反応抑制機構の運転場面への応用	100
7	東海大学 工学部土木工学科 准教授	鈴木 美緒	軽度認知障害ドライバーにおける運転時過負荷状態の予測と収束支援方策に関する研究	100
8	筑波大学 医学医療系 准教授	水野 智美	エスカレータを歩く・走る行為が交通困難者に与える危険性の分析とそれを防ぐ啓発方法	110
9	豊田都市交通研究所 主幹研究員	三村 泰弘	自転車通行空間利用率向上に向けた社会心理学的アプローチの試み	100
計9件				830

b. 海外

No.	研究代表者		研究課題	助成金額(万円)
10	Professor Center of Excellence in Particle Technology and Material Processing, Department of Chemical Engineering, Faculty of Engineering, Chulalongkorn University	Tawatchai Charinpanitkul	Exploration of carbon nanotube-cement composite fabricated for traffic safety application (交通安全に応用するために作るカーボンナノチューブ・セメント複合物の調査)	55
11	Suranaree University of Technology	Natthaporn Hantanong	Analysis of risk perception modelling and factors affecting in motorcyclist near misses using Structural Equation Modeling (構造方程式モデリングを用いたオートバイ運転者のニアミスに影響を及ぼすリスク知覚モデリングと要因の分析)	55
12	Associate Professor Department of Mechanical Engineering, Faculty of Engineering, King Mongkut's University of Technology Thonburi	Pattaramon Jongpradist	Passive Safety Performance of Electric Heavy Quadricycle (L7e) under Thailand Traffic Conditions (タイ交通環境下での超小型電気四輪自動車(L7e)の衝突安全性能)	55
13	Department of Chemistry, Faculty of Science, Mahidol University	Preeyanuch JUNKONG	Development of safety tire with enhancement of cut growth and abrasion resistances of natural rubber by controlling strain-induced crystallization (伸張結晶化の制御により天然ゴムの耐き裂進展性と耐摩耗性が強化された安全タイヤの開発)	55
14	KK Women's and Children's Hospital, Singapore	Ronald Ming Ren Tan	Pilot study of awareness and skill sets before and after child passenger safety training in Singapore (シンガポールにおける子供の乗客の安全教育前後における意識とスキルの探索的研究)	80
15	Associate Professor Bachelor Degree Program in Ocean Tourism Management, National Taiwan Ocean University	黄昱凱 Yu-Kai Huang	Human-Machine Cooperation and Conflict: the relationship between safety consciousness and behavior intention of self-driving for seniors from a non-linear relationship perspective (人とマシンとの協働と衝突：非線形関係の観点から高齢者の安全運転意識と自動運転行為との関連性)	76
計6件				376

② 著作・論文表彰

該当なし

③ 普及・啓発助成

No.	助成先	助成内容	助成金額(万円)
1	(一財)日本交通安全教育普及協会	「交通安全ファミリー作文コンクール」募集ポスター作成費用他	59
2	内閣府	「秋の全国交通安全運動」ポスター作成配布費用	7
3	交通安全フォーラム推進協議会	「交通安全フォーラム」協賛	25
4	内閣府	「春の全国交通安全運動」ポスター作成配布費用	6
計4件			97

(2) 高齢者福祉分野

① 研究助成

a. 国内

No.	研究代表者		研究課題	助成金額(万円)
1	北海道医療大学 看護福祉学部看護学科 准教授	明野 伸次	エコーを活用した在宅高齢者の便秘ケア e ラーニングプログラムの開発と検証	90

No.	研究代表者		研究課題	助成金額(万円)
2	東京都健康長寿医療センター研究所 研究副部長	上住 聡芳	間質細胞の臓器特異性から探るフレイルのメカニズム	140
3	東京医科大学 組織・神経解剖学分野 准教授	大山 恭司	海馬・髄膜境界域における細胞老化、老化細胞除去メカニズムの解明	150
4	名古屋市立大学大学院 理学研究科 准教授	奥津 光晴	運動が加齢性筋萎縮を予防する新規分子基盤の解明	140
5	大阪歯科大学 高齢者歯科学講座 講師	奥野 健太郎	要介護高齢者における下顎運動のモーションキャプチャーを用いた咀嚼・嚥下機能評価に関する研究 - 適切な食形態の提供に向けて -	100
6	国立病院機構京都医療センター 臨床研究センター 室長	日下部 徹	骨粗鬆症・サルコペニア外来におけるサルコペニアの有病率とその治療法の確立 - 筋・骨連関の解明 -	160
7	大阪大学大学院医学系研究科 寄附講座講師	今野 雅允	解糖系酵素のスプライシングファクターを標的とした新規アルツハイマー型認知症治療薬の開発	120
8	岡山大学病院 新医療研究開発センター 助教	坂本 陽子	医師の胃ろう造設に対する認識の違いは何に起因しているのか：関連因子の探索的研究	60
9	兵庫医科大学 内科学総合診療科 主任教授	新村 健	フレイルの予後予測バイオマーカーとしての血清 miRNA 測定有用性の検討	140
10	東京大学大学院医学系研究科 博士課程	高岡 茉奈美	尊厳ある排泄ケア普及のための複合的支援プログラムの開発と排泄ケアの質向上に対する効果の検証	110
11	佐賀大学医学部附属病院 総合診療部 准教授	多胡 雅毅	退院直後の高齢者の在宅療養を支える ICT を活用したシステムの実践と開発	85
12	大阪工業大学 ロボティクス&デザイン工学部 准教授	谷口 浩成	ソフトアクチュエータを用いた自動体位変換による褥瘡予防装置の開発	100
13	富山県立大学工学部 講師	塚越 拓哉	浴槽内で使用できるバイタルセンサの開発	120
14	摂南大学 看護学部 教授	富永 真己	高齢者福祉施設の看護職の定着促進を旨とした職場支援プログラムの開発と有効性の検証	50
15	駒沢女子大学 看護学部 講師	戸村 ひかり	退院支援看護師の役割に応じた実践能力の開発 - 全国調査の実施と教育プログラムの開発 -	75
16	広島大学大学院 医系科学研究科整形外科 助教	中前 稔生	高齢者の腰痛発症メカニズムの解明 - 腰椎椎体終板周囲の骨髄浮腫の解析 -	100
17	千葉大学 医学部整形外科 医員	乗本 将輝	拡散テンソル ADCmap を用いた腰部脊柱管狭窄症の定量評価法の確立	100
18	東京都健康長寿医療センター研究所 研究員	増井 幸恵	虚弱な高齢者が持続的に参加可能な地域活動プログラムの開発と効果検証 - マインドフルネスを活用した「ありのままの受容」を促進する体操プログラムとサロン活動プログラムの開発・実施を通じて -	90
19	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 腎・免疫・内分泌代謝内科学 助教	松本 佳則	酵素活性に着目した骨粗鬆症の発症メカニズム解明と治療法開発	85
20	九州大学 キャンパスライフ・健康支援センター 教授	丸山 徹	独居や寝たきり高齢者のための非接触・無拘束・着衣下での見守りシステムの高性能化と実証研究	100
21	東京慈恵会医科大学 救急医学講座 講師	万代 康弘	心肺蘇生を希望しない高齢者の救急搬送の実態	50
22	千葉県立保健医療大学 教授	三和 真人	AI による高齢者転倒予防のための予測システムの構築に向けて	35
23	東北大学 加齢医学研究所	山家 智之	「お年寄りの気持ちを理解する」世界で初めての医療・看護・福祉共通プラットフォーム	100
計 23 件				2,300

b. 海外

No.	研究代表者		研究課題	助成金額(万円)
24	Clinical A/P, Duke NUS Medical School, Singapore; SingHealth Polyclinics, Singapore	Tan Ngiap Chuan	Using Augmented Reality to Assess Cognitive Function in Older Persons (高齢者における認識機能評価のための拡張現実の利用)	80

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)
25	Singapore General Hospital Lim Siew Hoon	Redefining frailty with resilience and self-efficacy in older adults and caregivers in acute care context (短期ケアでの高齢者と介護者において回復力と自己効力感によってフレイルリティを再確認すること)	80
計2件			160

② 著作・論文表彰

該当なし

③ 施設・事業助成

No.	助成先	助成内容	助成金額(万円)
1	社会福祉法人 誠愛会	介護福祉車両購入費用(東京都あきる野市)	99
2	社会福祉法人 湖北ふれあい	介護福祉車両購入費用(島根県松江市)	100
3	社会福祉法人 ノテ福祉会	介護福祉車両購入費用(北海道札幌市)	100
計3件			299

令和2年度(2020年度)

(1) 交通事故・各種災害の防止等分野

① 研究助成

a. 国内

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)
1	東京都市大学 建築都市デザイン学部都市工学科 准教授 稲垣 具志	軽度認知障害に関する免許返納判定に基づく運転継続支援・モビリティ環境順応プログラムの構築に向けた基礎的研究	135
2	工学院大学工学部 機械システム工学科 准教授 Woo Hanwool	周辺車両の運転特性および経路予測に基づく先進型車間距離制御システムの構築	80
3	香川大学 創造工学部 教授 鈴木 桂輔	高齢者および脳機能疾患者を対象とした運転可否判定ガイドラインの提案	95
4	新潟医療福祉大学 医療技術学部救急救命学科 教授 竹井 豊	救急隊員を対象とした病院連絡トレーニングツールの開発	70
5	名古屋大学大学院 工学研究科 機械システム工学専攻 研究員 田中 良彦	自動車乗員のラップベルトと上前腸骨棘の相互作用にもとづくサブマリソ発生機序の解明	70
6	久留米工業高等専門学校 制御情報工学科 准教授 松島 宏典	コンピュータビジョンに基づいた電動車いす用安全運転支援のための前方状況認識に関する研究	95
7	東京大学 大学院新領域創成科学研究科 特任助教 三浦 詩乃	地域の公衆衛生向上をもたらす街路のプレイス機能計画手法の構築	70
8	愛知工科大学 工学部 准教授 山高 正烈	運転行動・心理状態の共有による「あおり運転」の効果的抑制システムの開発	100
9	公益財団法人豊田都市交通研究所 主任研究員 楊 甲	高齢運転者を対象としたテレマティクス自動車保険の社会受容性に関する実証的研究	90
計9件			805

b. 海外

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)
10	Department of Management, Faculty of Business Administration Rajamangala University of Technology Isan (Nakhon Ratchasima) Thanapong Champahom	Modeling of parents' intention for using child safety seat: Confirmatory factor analysis approach (チャイルドシート使用に関する親の意向のモデリング: 確認的因子分析アプローチ)	53
11	ASEAN Institute for Health Development, Mahidol University, Nakorn Pathom, Thailand Orapin Laosee	Assessment tools predicting fitness-to-drive in the old taxi drivers: a screening measure for future road safety directions (高齢タクシードライバーの運転適性を予測する評価ツール: 将来の交通安全監督のための適格審査)	53
12	Assistant Professor Faculty of Science and Technology, Valaya Alongkorn Rajabhat University under the Royal Patronage Weerawat Ounsaneha	Appropriate Model for Road Safety in World Heritage Site toward Stakeholder Integration: a Case Study of Ayutthaya Province, Thailand (利害関係の統合に向けた世界遺産における交通安全の適切なモデル: タイ・アユタヤ県におけるケーススタディ)	53

No.	研究代表者		研究課題	助成金額(万円)
13	Burapha University	Sarawin Thepsatitporn	Prevalence and factors affecting visual performance and eye fatigue of public carrier car driver in Bangkok and perimeter area (バンコクおよびその周辺における公共交通機関ドライバーの視力と眼精疲労に影響を与える有病率と要因)	53
14	Associate Professor National Taiwan Ocean University	吳繼虹 Wu, Chi-Hung	Study of Association between the Acceptance and Influence of UBI Pricing Factors and Driving Behavior (UBI (テレマティクス保険) の保険料決定要素の受容・影響と運転行動との関連性の研究)	75
15	Professor Department of Risk Management and Insurance,Feng Chia University, Taiwan	許文彦 Wen-Yen Hsu	Adverse Selection in Automobile Insurance Market: Evidence from the Taxi Driver Insurance in Taiwan (自動車保険市場における逆選択：台湾のタクシー運転手保険からの根拠)	75
16	Associate Professor Department of Risk Management and Insurance,National Kaohsiung University of Science and Technology, chinghao@nkust.edu.tw	陳青浩 Ching-Hao Chen	A Research of Highway Bus Drivers' Stress and Sleep Quality (高速バス運転手のストレスと睡眠の質の研究)	75
17	Associate Professor, Department of Transportation and Logistics Management, National Yang Ming Chiao Tung University	鍾易詩 Yi-Shih Chung	An Exploratory Study of Vehicle-pedestrian Interactions based on Pedestrians' Visual Search Behaviors (歩行者の視覚探索行動に基づく歩行者と車両の相互作用の予備的研究)	75
計8件				512

② 著作・論文表彰

著者	題名	副賞(万円)
金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別支援学校教諭	吉岡 学 【論文・財団奨励賞】 知的障害児2名における道路及び横断歩道の歩行スキル形成	30
計1件		30

③ 普及・啓発助成

No.	助成先	助成内容	助成金額(万円)
1	(一財)日本交通安全教育普及協会	「交通安全ファミリー作文コンクール」募集ポスター作成費用他	59
2	内閣府(政策調整担当)	「秋の全国交通安全運動」ポスター作成配布費用	5
3	内閣府(政策調整担当)	「春の全国交通安全運動」ポスター作成配布費用	6
計3件			70

(2) 高齢者福祉分野

① 研究助成

a. 国内

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)
1	高知大学 教育研究部医療学系 基礎医学部門 教授	麻生 梯二郎 NRBP1-BRI2間の相互作用を標的とする新規認知症治療薬の開発	120
2	千葉大学大学院看護学研究院 助教	雨宮 歩 ICTで身体拘束を減らすー医療用カテーテル自己除去防止システムの開発ー	100
3	(公財)ダイヤ高齢社会研究財団 研究員	安 順姫 ポジティブ心理学的介入が軽度要介護高齢者の精神的健康に及ぼす効果	50
4	九州大学大学院 医学研究院 准教授	伊原 栄吉 食道期の嚥下機能に起因する誤嚥性肺炎の病態解明と食道運動機能に焦点をあてた予防医療の開発	110
5	高崎健康福祉大学薬学部 細胞生物学研究室 准教授	今井 純 ユビキチン鎖修飾タンパク質の蓄積が老化に果たす役割の解明とそれに基づく老化の進行を緩和、抑制する化合物の探索	150
6	東京医科大学 組織・神経解剖学分野 准教授	大山 恭司 海馬ニューロン新生における神経堤幹細胞の性状と機能解明	120
7	京都府立医科大学大学院医学研究科 内分泌代謝内科 病院助教	岡村 拓郎 サルコペニア肥満予防法の開発と高齢者医療への応用ーマルチオミクス解析による検討ー	100
8	広島大学大学院医系科学研究科 助教	加治屋 幹人 三次元間葉系幹細胞集塊からの骨オルガノイド創生とそれを用いた革新的骨再生医療開発	90
9	奈良県立医科大学 脳神経内科学講座 准教授	形岡 博史 パーキンソン病とサーカディアンリズムに関する大規模縦断調査	100
10	広島大学大学院医系科学研究科 助教	上川 泰直 核膜修復メカニズムから迫る老化リプログラミング法の開発	100

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)	
11	奈良県立医科大学 麻酔科学教室 教授	川口 昌彦	病院快適環境整備の効果検証—入院患者における病室内疑似窓設置による睡眠の質および認知機能に及ぼす影響についての検討。	160
12	西九州大学 看護学部看護学科 講師	齋藤 嘉宏	看護師が実践するアルコール依存症に対する認知行動療法の有用性～認知症予防の視点から～	100
13	埼玉医科大学医学部社会医学 講師	高橋 美保子	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策の二次的健康影響評価の試み—高齢者における超過死亡の動向分析	50
14	一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構 主任研究員	土屋 瑠見子	要支援高齢者における住宅改修の要介護度維持効果：医療・介護政策における住宅改修サービスの最適化に向けたアウトカム指標の検討	80
15	東京大学大学院 医学系研究科 博士課程	沼田 華子	若手訪問看護師の在宅看取り実践能力向上を目指した育成プログラムの開発と評価	70
16	新潟大学歯学総合病院 義歯診療科 講師	長谷川 陽子	口腔機能低下は高齢者の引きこもりを促進させるのか？	180
17	山陽小野田市立山口東京理科大学 教授	細井 徹	新規膵臓β細胞由来神経保護因子によるアルツハイマー病発症抑制への関わりを検討	100
18	九州大学医学研究院 保健学部看護学分野 講師	松永 由理子	人工股関節再置換術（revision total hip arthroplasty）を受けた高齢患者の生活活動量とQOLの検証	50
19	神奈川大学人間科学部 教授	松本 安生	居住環境の異なる地域における高齢者の活動量変化と非接触型の新たな介入方法の提案	120
20	愛媛大学大学院医学系研究科 教授	茂木 正樹	サルコペニアががん免疫に与える影響についての基礎的研究	120
21	東京大学医学部附属病院 老年病科 助教	矢可部 満隆	骨格筋に対する漢方補剤の効果とその性差の検討	70
22	東京大学大学院医学系研究科 糖尿病・代謝内科届出研究員 英国キングスカレッジロンドン Institute for Population Health 客員教授	山田 朋英	高齢者に対する人工知能を用いた運動、栄養の健康効果の検証とヘルスケアの個別化の実現化	100
23	岡山県立大学 保健福祉学部 栄養学科 教授	山本 登志子	簡便で非侵襲的な咀嚼・嚥下機能測定法の開発と食品機能性を付加した嚥下調整食の開発	120
24	九州大学病院 内分泌代謝・糖尿病内科 助教	横溝 久	ナトリウム・グルコース共輸送体2（SGLT2）阻害薬カナグリフロジンは非糖尿病マウスの遅筋および速筋に異なる影響を及ぼす	90
計 24 件			2,450	

b. 海外

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)	
25	Adjunct Assoc Prof Senior Consultant Department of Geriatric Medicine Changi General Hospital	Lim Si Ching	Use of iPads for Simulated Presence and Other Therapies for the Older Patients in the Isolation and General Wards During the COVID-19 Pandemic (COVID パンデミックにおける隔離病棟と一般病棟の高齢患者の疑似面談へのiPadの使用およびその他の療法)	79
26	PhD Candidate, The Chinese University of Hong Kong	LAU, Man Yi, Mandy	The Experiences of Older Parents and Adult Children on Filial Piety: The Case of Singapore (高齢の親と成人した子供たちの孝行体験：シンガポールの事例)	79
27	Assistant Professor Alice Lee Centre for Nursing Studies, Yong Loo Lin School of Medicine, National University of Singapore	WU Xi Vivien	Development of an Intelligent Advisory System for Safe and Active Aging (安全で活動的な高齢化のためのインテリジェントアドバイザーシステムの開発)	78
28	Singapore General Hospital	Dawn Tan	You can't fix what you can't see - improving assessment methods for freezing of gait in people with Parkinson's disease (見えないものは直せない—パーキンソン病患者の進行凍結評価方法の改善)	79
計 4 件			315	

② 著作・論文表彰

著者	題名	副賞(万円)	
虎の門病院 顧問	大内 尉義	【論文・財団賞】 Ezetimibe Lipid-Lowering Trial on Prevention of Atherosclerotic Cardiovascular Disease in 75 or Older(EWTOPIA 75) -A Randomized, Controlled Trial (75歳以上の高齢者の心血管疾患予防におけるエゼチミブによる脂質低下療法の効果に関する臨床試験 (EWTOPIA75) —ランダム化比較試験)	50

著者	題名	副賞(万円)
東京大学高齢社会総合研究機構 研究員	税所 真也 【著作・財団奨励賞】 成年後見の社会学	30
計2件		80

③ 施設・事業助成

No.	助成先	助成内容	助成金額(万円)
1	社会福祉法人 天祐会	介護福祉車両購入費用(千葉県安房郡鋸南町)	80
計1件			80

令和3年度(2021年度)

(1) 交通事故・各種災害の防止等分野

① 研究助成

a. 国内

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)	
1	甲南女子大学 人間科学部生活環境学科 准教授	小野寺 美和	高視認性安全服と新規の蓄光布を用いて視認性及び持続性に優れた社会的弱者の安全に配慮したスマートテキスタイルの創製	100
2	帝京平成大学 ヒューマンケア学部鍼灸学科 助教	小峰 昇一	伸長性収縮による骨格筋損傷モデルを用いた、鍼治療効果の検討	95
3	東海大学 工学部土木工学科 准教授	鈴木 美緒	高齢ドライバーの認知機能に応じた持続可能性の高い運転指導・評価手法に関する研究	100
4	福岡大学工学部 社会デザイン工学科 助教	田部井 優也	駐車場出入口周辺の安全性確保に関する研究～自動運転車社会を見据えて～	65
5	筑波大学大学院 人間総合科学学術院 医学学位プログラム	中谷 卓史	難治性巨大骨欠損に対する生体異物反応を応用した新規治療法の開発	145
6	名古屋大学 未来社会創造機構 研究員	平野 昭夫	高齢ドライバーの実車走行におけるペダル操作の定量的解析	90
7	金沢工業大学 工学部情報工学科 教授	松井 くにお	コード化点字ブロックによるAI音声情報案内サービス	80
8	帝塚山大学 心理学部心理学科 講師	森泉 慎吾	高齢者の運転支援システム利用に影響する要因に関する研究	120
計8件			795	

b. 海外

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)	
9	Singapore University of Social Sciences	Fang Liu	Data Driven Traffic Accidents Visualization and Root Cause Quantification with Explainable Artificial Intelligence for improved Road Safety and Urban Planning (データ駆動型の交通事故の可視化と交通安全と都市計画を改善するための説明可能な人工知能による根本原因の定量化)	86
10	Lecture at Department of Mechanical Engineering, Faculty of Engineering, King Mongkut's University of Technology Thonburi, Bangkok, Thailand	Suphanut Kongwat	Investigation on Helmet Structural Performance under Severity of Motorcycle Accidents in Thailand (タイにおける二輪車事故実態下でのヘルメットの構造性能に関する調査)	52
11	Assoc.Prof. School of Engineering and Technology, Walailak University	Thanongsak IMJAI	Durability and traffic-safety functional performance of innovative porous asphalt pavement in Motorway No. 9 (高速道路9号線の革新的な多孔質アスファルト舗装の耐久性と交通安全機能性能)	52
12	College of Nursing, Christian University of Thailand	Netchanok Sritoomma	The components and indicators of road safety management on the motorcycle service delivery during Covid-19 pandemic. (新型コロナウイルス感染症蔓延下における二輪車配達の交通安全管理の構成要素と指標)	52
13	PhD, Social Research Institute, Chulalongkorn University	Pichaya Surapolchai	The Board Game Development for Enhancing Traffic Safety Learning in Youth and Adolescent (青年期の交通安全学習を強化するためのボードゲーム開発)	52
14	M.S. student Department of Transportation and Communication Management Science, National Cheng Kung University	林章能 Lin, Jhang-Neng	Usage-based Insurance service for Motorcycle logistics - The Case of Food Delivery Service (バイク配達員のためのテレマティクス保険サービス-フードデリバリーサービスの事例)	84

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)	
15	Professor National Cheng Kung University	李中一 Chung-Yi Li	Risk of motor vehicle crash associated with pregnancy: comparison with non-pregnancy period. (妊娠に伴う自動車事故のリスク：非妊娠期間との比較)	84
16	Professor Department of Risk Management and Insurance, Feng Chia University, Taiwan	許文彦 Wen-Yen Hsu	Pricing the Usage-Based Insurance for Tour Bus in Taiwan (台湾の観光バスのためのテレマティクス保険の価格設定)	84
計8件			546	

② 著作・論文表彰

著者	題名	副賞(万円)	
豊田市交通研究所 研究部 主任研究員	楊 甲	【論文・財団奨励賞】 The impact of mandating a driving lesson for elderly drivers in Japan using count data models: Case study of Toyota City カウントデータモデルを用いた日本国に実施している高齢運転者講習による効果—豊田市を事例として—	30
計1件		30	

③ 普及・啓発助成

No.	助成先	助成内容	助成金額(万円)
1	(一財) 日本交通安全教育普及協会	「交通安全ファミリー作文コンクール」募集ポスター作成費用他	59
2	内閣府 (政策調整担当)	「秋の全国交通安全運動」ポスター作成配付費用	5
3	交通安全フォーラム推進協議会	「交通安全フォーラム」協賛	10
4	内閣府 (政策調整担当)	「春の全国交通安全運動」ポスター作成配布費用	5
計4件			79

(2) 高齢者福祉分野

① 研究助成

a. 国内

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)	
1	岡山県立大学 情報工学部 教授	綾部 誠也	COVID-19 パンデミックに伴う身体不活動が健康状態と医療費に及ぼす影響：歩数計の48ヶ月間の連続装着による客観的に評価された歩数による2018年からの4カ年の大規模縦断的分析	50
2	信州大学医学部 運動機能学教室 講師	池上 章太	高齢者脊柱アライメントと運動能力・介護に関する疫学調査（おぶせスタディ第2期）	100
3	東京都健康長寿医療センター研究所 研究部長	石渡 俊行	膵臓がん細胞の老化誘導と老化細胞除去療法の開発	120
4	名古屋学芸大学 健康・栄養研究所 客員研究員	宇野 千晴	健常高齢者の長期縦断疫学フォローアップ研究 (Nagoya Longitudinal Follow up Study for Healthy Elderly: NLFS-HE)	75
5	東京都健康長寿医療センター研究所 部長	岡村 毅	若年性認知症をもつ人のための診断後支援のための地域のシステム作り	160
6	兵庫教育大学 人間発達教育専攻 教授	岡本 希	人生の終盤に向かう過程における心と知識の事前準備に関する実態調査	80
7	東北工業大学 建築学部建築学科 教授	鍵屋 浩司	介護ロボットによる災害時の高齢者施設内の避難方法の標準化	90
8	慶應義塾大学医学部 循環器内科学 助教	北方 博規	高齢心不全患者のアドバンス・ケア・プランニングの実施に対する社会的孤立の影響の検証と予防へ向けた支援システムの構築	100
9	湘南医療大学 薬学部 教授	木村 聡一郎	自然免疫活性化作用を有する新規肺炎球菌ワクチンの創出	160
10	国立長寿医療研究センター 分子基盤研究部 部長	里 直行	糖尿病による認知症促進機構の分子・細胞生物学的解明	160
11	名古屋大学大学院 医学系研究科整形外科	佐藤 洋一	AI（人工知能）を用いた、胸部単純X線写真から骨密度を計測するアルゴリズムの開発研究	85
12	東京大学 特任准教授	孫 輔卿 Bo-Kyung SON	Development and implementation of bidirectional online-frailty prevention system for community-dwelling older adults (地域在住高齢者の「双方向オンライン型フレイル予防システム」の開発および実用化)	160
13	広島大学大学院医系科学研究科 助教	陳 三妹	地域在住高齢者における認知的フレイルと要介護状態リスク・介護給付費および医療費との関連：8年間の前向きコホート研究	100

No.	研究代表者		研究課題	助成金額(万円)
14	埼玉県立大学 保健医療福祉学部 教授 同大学大学院保険医療福祉学研究所 教授(兼任)	中村 裕美	高齢者入所施設の専門職の勤労者役割遂行に関連する要因の解明	40
15	東京大学大学院医学系研究科 加齢医学 助教	七尾 道子	エストロゲンによるサルコペニア抑制作用の機序解明:慢性炎症に着目して	100
16	大阪大学大学院薬学研究所 教授	深田 宗一郎	人為的な運動療法開発を目指した運動模倣因子の同定	160
17	日本赤十字豊田看護大学 講師	深谷 由美	通所介護における医療的ケアを必要とする利用者の受入れ状態とその課題:混合研究法	40
18	順天堂大学大学院医学研究科 特任准教授	北條 浩彦	サルコペニアに関わる遺伝子を抑制し筋萎縮を阻止する新しい核酸医薬の開発	120
19	東京大学医学部附属病院 在宅医療学講座 特任研究員	細井 達矢	長寿遺伝子(Sirt1)の筋骨格系の与える影響、加齢変化に関する研究	160
20	三重大学大学院医学系研究科 教授	百崎 良	高齢入院患者におけるフレイルリスクのインパクト	100
21	奈良県立医科大学 疫学・予防医学講座 助教	山上 優紀	COVID-19 感染拡大による身体活動量の変化とサルコペニア/フレイル発症の関連 —COVID-19 感染拡大前後の縦断研究—	120
計 21 件				2,280

b. 海外

No.	研究代表者		研究課題	助成金額(万円)
22	Singapore University of Social Sciences	Fang Zheng	Lifelong learning and mental wellbeing of older adults in Singapore (シンガポールの高齢者の生涯学習とメンタルヘルス)	86
計 1 件				86

② 著作・論文表彰

著者		題名	副賞(万円)
東京都健康長寿医療センター研究所 研究員	大村 卓也	【論文・財団奨励賞】 高齢糖尿病患者におけるエネルギー摂取量と死亡リスクの検討(J-EDIT 研究)	30
筑波大学人間系 教授	山田 実	【論文・財団奨励賞】 Effect of the COVID-19 Epidemic on Physical Activity in Community-Dwelling Older Adults in Japan: A Cross-Sectional Online Survey. COVID-19 感染拡大が地域在住高齢者の身体活動に及ぼす影響:オンラインを用いた横断調査	30
計 2 件			60

令和4年度(2022年度)

(1) 交通事故・各種災害の防止等分野

① 研究助成

a. 国内

No.	研究代表者		研究課題	助成金額(万円)
1	富山大学大学院学術研究部 都市デザイン学系 准教授	猪井 博登	地方都市における戦略的な積雪対策のための交通および気象データの関係性分析	80
2	東京理科大学 創域理工学部社会基盤工学科 助教	鈴木 雄	高齢者の公共交通乗り放題施策による交通行動・免許返納意識の変化	130
3	一般社団法人全信工協会 理事	竹野 誠一	被災後の交通信号施設の早期復旧に関する研究(特に、東日本大震災の教訓から)	110
4	大阪工業大学 工学部都市デザイン工学科 特任准教授	西堀 泰英	無信号横断歩道の一時停止率向上に向けた横断歩道の形状及び周辺環境に関する研究	120
5	日本医科大学千葉北総病院 救命救急センター 助教 MCI 対応研究チーム	益子 一樹	普及を見据えたネットワーク型トリアージシステムの構築、開発に関する研究	130
6	千葉大学大学院 医学研究院 特任研究員	三浦 正敬	人工知能を用いた、脊椎脊髄損傷患者のMRI 画像生成モデルの開発	115

No.	研究代表者		研究課題	助成金額(万円)
7	豊田工業高等専門学校 環境都市工学科 教授	山岡 俊一	幾何構造に着目した生活道路の無信号交差点における一時停止率への影響要因分析	80
8	日本大学大学院 理工学研究科 博士後期課程	吉村 暢洋	歩行者優先のための注意喚起機能を付加した無信号横断歩道施設に関する研究	145
計 8 件				910

b. 海外

No.	研究代表者		研究課題	助成金額(万円)
9	Specialist Lecturer, Faculty of Architecture, Chiang Mai University	Zi Liang Huang	Creating a user dynamic pedestrian traffic crossing- A case study and impact assessment in Chiang Mai University (利用者動向対応横断歩道の設置 - チェンマイ大学におけるケーススタディと影響評価)	61
10	Assoc.Prof. Dean, Faculty of Engineering, Thai-Nichi Institute of Technology, Bangkok, Thailand	Anchalee Supithak	The Study of Awareness of Child Car Restraint Compliance and the Prediction of Parent's Intention to Use in Thailand (タイにおけるチャイルドシート遵守意識と保護者の利用意向予測に関する研究)	55
11	Associate Professor School of Engineering and Technology, Walailak University	Thanongsak IMJAI	Improving traffic safety of vulnerable users and energy efficiency with 'glow in the dark' road markings (「暗闇で光る」路面標示による交通弱者の安全とエネルギー効率の改善)	61
12	Associate Professor, School of Public Health Walailak University Nakhon Si Thammarat Thailand	Sanhawat Chaiwong	The effect of family-centered approach, the real education for drivers (RED theories) program, and five road safety education programs to the youth's awareness of road safety in Nakhon Si Thammarat province (家族中心のアプローチ、運転者のための現実教育 (RED 理論) プログラム、および5つの交通安全教育プログラムがナコンシータマラート県の若者の交通安全に対する意識に与える影響)	61
13	National Cheng Kung University	張海威 Hai-Wei Chang	An Analysis of the Risk Level of Scooter Rider's Behavior Applied to Couriers' Fragmented Usage-Based Insurance (宅配業者の細分化テレマティクス保険が適用されるスクーターライダーの行動のリスクレベル分析)	91
14	PhD Candidate, University of Sydney	葉家榮 Chia-Jung Yeh	Exposure-based Insurance System based on Accident-prone Map and User Travel Trajectories (事故多発マップと利用者の移動履歴に基づく危険度に応じた保険制度)	91
15	National Yang Ming Chiao Tung University	吳宗修 T. Hugh Woo	The Behavior of Alien Workers Using Electric Bicycles in Taiwan (台湾における電動自転車を利用する外国人労働者の行動)	88
16	Associate Professor Bachelor Degree Program in Ocean Tourism Management, National Taiwan Ocean University	黃昱凱 Yu-Kai Huang	Constructing a Risk Assessment Model for AI Transportation Systems from the Viewpoint of Antifragility (反脆弱性の観点からのAI交通システムのリスク評価モデルの構築)	91
計 8 件				599

② 著作・論文表彰

	著者	題名	副賞(万円)	
	島根大学 医学部医学科 教授	藤田 幸	【論文・財団奨励賞】 Inhibition of HDAC increases BDNF expression and promotes neuronal rewiring and functional recovery after brain injury. ヒストンデアセチラーゼ阻害剤は、脳由来神経栄養因子 BDNF の発現を増加し、外傷性脳損傷後の神経回路修復及び運動機能回復を促す	30
計 1 件			30	

③ 普及・啓発助成

No.	助成先	助成内容	助成金額(万円)
1	(一財) 日本交通安全教育普及協会	「交通安全ファミリー作文コンクール」募集ポスター作成費用他	59
2	内閣府	「秋の全国交通安全運動」ポスター作成配付費用	5
3	交通安全フォーラム推進協議会	「交通安全フォーラム」協賛	10
4	内閣府	「春の全国交通安全運動」ポスター作成配付費用	5
計 4 件			79

(2) 高齢者福祉分野

① 研究助成

a. 国内

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)
1	東京大学医学部附属病院 老年病科 講師 東 浩太郎	ビタミンKが高齢者の精神・行動へ及ぼす新規作用の解明 分子生物学から疫学まで	200
2	埼玉大学保健センター (社会変革研究センター 地方共創研究部門兼任) 准教授 近江 翼	高齢精神障害者支援体制の構築に求められる諸課題の調査と考察	50
3	国立長寿医療研究センター研究所 老年学・社会科学研究センター 科学的介護推進チーム チームリーダー 大浦 智子	介護職員のリスク認知とストレスに焦点をあてた介護事故防止に関する研究：人・環境・管理的要因	110
4	信州大学 医学部医学科 特任教授 大橋 俊夫	高齢者の熱中症予防のためのウェアラブル発汗計の開発	120
5	千葉大学フロンティア医工学センター 教授 折田 純久	腰痛患者の選択的体幹サポートを実現する多フレーム型アクティブ装具の開発	100
6	慶應義塾大学 医学部生理学教室 特任講師 加瀬 義高	加齢による神経細胞の内在的変容の解析および抗老化因子の解明	140
7	広島大学大学院医系科学研究科 助教 北嶋 康雄	タンパク質分解系の機能不全による筋量調節機構の解明	90
8	島根大学 医学部神経・筋肉生理学 准教授 桑子 賢一郎	核を起点とした軸索制御システムの解明と脳老化予防への応用	110
9	東京大学医学部附属病院 腎臓・内分泌内科 助教 田中 真司	腎神経を標的とした慢性腎臓病新規治療法の開発	140
10	国立病院機構相模原病院 臨床研究センター 研究員 津野 宏隆	タンパク質分解酵素の活性化プロセスに着目した変形性関節症における軟骨変性機序の解明	110
11	大阪大学大学院人間科学研究科 准教授 中川 威	軽度要介護高齢者におけるウェルビーイング	110
12	東京大学大学院医学系研究科 講師 中澤 栄輔	高齢者福祉政策の基盤としての老年哲学の混合研究法による再検討	100
13	広島大学大学院医系科学研究科 脳神経内科学 助教 中森 正博	Investigation of the swallowing function using interferential current sensory stimulation for Parkinson's disease patients: a single arm intervention study (パーキンソン病患者における誤嚥機序の探索と咽喉頭感覚神経電気刺激リハビリの有効性の検討)	110
14	東京大学大学院医学系研究科 准教授 西 裕志	骨格筋の創傷治癒遅延に着目したサルコペニア発症メカニズム解明	110
15	千葉大学大学院医学研究院 薬理学 准教授 橋本 弘史	サルコペニアモデルラットにおけるオキシトシンの役割の検討	100
16	ジョンスホプキンス大学 医学部精神科 Research Associate 長谷川 祐人	グリンパティックシステムに基づく加齢認知機能障害の新規治療開発	130
17	東京大学大学院 農学生命科学研究科 助教 正木 聡	糖代謝酵素に着目した新たなサルコペニア予防法の提案	110
18	筑波大学 医学医療系整形外科 講師 三浦 紘世	廃用症候群患者のADL向上に向けたHAL腰タイプを用いたロボットリハビリテーションの安全性および有効性の検討 - 多施設前向き介入試験 -	110
19	東京都健康長寿医療センター研究所 研究部長 三浦 ゆり	グライコミクス・グライコプロテオミクスによる健康長寿の機序の解明	130
20	大阪大学大学院医学系研究科 腎臓内科学 特任助教(常勤) 山本 毅士	腎臓の老化に対抗するTFEBとオートファジーの協調的な代謝調節機構の解明	130
21	岡山大学学術研究院 歯歯学域 救命救急・災害医学講座 講師 湯本 哲也	In-Hospital Management of Out-of-Hospital Cardiac Arrest Patients with "Do Not Attempt Resuscitation orders: A Cross-Sectional Survey (蘇生を希望しない院外心停止患者における医療従事者の診察に関する実態調査)	55
22	埼玉医科大学 国際医療センター婦人科腫瘍科 教授 吉田 裕之	Development of an AI-based model for predicting chemotherapy adverse events in elderly cancer patients (高齢がん患者におけるAIを用いた化学療法有害事象予測モデルの開発)	50
23	神戸医療産業都市推進機構 先端医療研究センター 免疫機構研究部 研究員 和久(仲島) 由佳	CD45RBの発現亢進を介した加齢に伴うT細胞機能不全メカニズムの解明	120
計 23 件			2,535

② 著作・論文表彰

著者	題名	副賞(万円)
東京大学大学院医学系研究科 公共健康医学専攻 医療倫理学分野 教授	赤林 朗 【著作・財団賞】 Bioethics Across the Globe 地球をまたぐ生命倫理	50
計1件		50

④ 施設・事業助成

No.	助成先	助成内容	助成金額(万円)
1	社会福祉法人 佛子園	介護福祉車両購入費用(石川県白山市)	100
計1件			100

令和5年度(2023年度)

(1) 交通事故・各種災害の防止等分野

① 研究助成

a. 国内

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)
1	北里大学大学院 医療系研究科 大学院生 (2025年4月時点:交通安全環境研究所)	飯塚 達也 疲れ目が歩行者の視認性へ及ぼす影響	130
2	名古屋大学 未来社会創造機構 研究員	岸 浩司 対話式車載インタフェース開発に活用できる認知負荷の簡易計測法の開発	100
3	北海道千歳リハビリテーション大学 教授	佐々木 努 高齢ドライバーに対する安全運転・健康教育プログラムの開発	35
4	静岡理科大学 理工学部 土木工学科 准教授	鈴木 一史 地域性に着目した無信号横断歩道におけるドライバーの譲りに関する意識構造分析	70
5	東京歯科大学市川総合病院 精神科・部長 准教授	宗 未来 怒りの制御困難を呈する後天性脳損傷患者に対するアンガーマネジメント認知行動療法(CBT)における、治療アプリとメタバース(VR空間)の活用による効果増強の検討	110
6	大阪工業大学 教職教室 教授	辰巳 育男 中学校技術科におけるデジタルファブリケーションで製作する防災教材の開発	90
7	千葉大学 フロンティア医工学センター/大学院工学研究院 / 医学部附属病院 教授	中川 誠司 重度難聴者のための自動車運転時聴覚補助システムの開発	100
8	島根大学 医学部医学科 教授	藤田 幸 外傷後の神経回路修復手法の開発	110
9	埼玉大学大学院 理工学研究科 助教	間邊 哲也 拡散モデルと画像セグメンテーションを用いた転移学習用画像生成による特定小型原動機付自転車の不適切な歩道走行の検出の実現	80
10	園田学園女子大学 人間教育学部 准教授	山崎 雅史 児童の加害行為に着目した交通安全教育教材の開発	40
11	金沢大学 准教授	米陀 佳祐 市街地向け自動運転における交通参加者のリアルタイムな物体認識・行動予測の同時推定	70
計11件			935

b. 海外

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)
12	Suranaree University of Technology	Natthaporn Hantanong Assessing the self-report instruments of younger versus older riders involved in near-miss motorcycle incidents (オートバイのニアミス事故に巻き込まれた若いライダーと高齢のライダーの自己申告手段の対比評価)	64
13	Post-doctoral researcher, Institute of Research and Development, Suranaree University of Technology	Chamroeun Se The interdependent relationship between at-fault and non-at-fault status and motorcycle-involve crash severities (過失/無過失の状況とオートバイが関与する衝突の重大度との相互依存関係)	57
14	Associate Professor ASEAN Institute for Health Development, Mahidol University	Cheerawit Rattanapan Effectiveness Program of Road Safety Literacy for Foreign Visitor Cyclists in a World Heritage Site of Thailand (タイの世界遺産における外国人観光客サイクリストの交通安全リテラシーの効果向上プログラム)	64
15	Chulalongkorn University Social Research Institute	Pichaya Surapolchai The Board Game Development to Raise an Awareness in Traffic Safety among Elementary School Student (小学生の交通安全意識を高めるボードゲーム開発)	64

No.	研究代表者		研究課題	助成金額(万円)
16	Assistant Professor Department of Transportation and Communication Management Science, National Cheng Kung University	傅強 Fu, Chiang	Modeling the crash severity at street intersections by the Latent Class Bivariate Generalized Ordered Probit model (LCBGOP) (市街地交差点における衝突事故の重症度に関するモデル分析)	96
17	Professor, Department of Risk Management and Insurance, Feng Chia University, Taiwan	許文彦 Wen-Yen Hsu	Pricing Auto Physical Damage Insurance for Electric Vehicle in Taiwan (台湾における電気自動車(EV車)車両保険損失(頻度、金額)と引受(プライシング)との関係性研究)	96
18	Department of Transportation and Communication Management Science, National Cheng Kung University	吳采真 Tsai Chen Wu	Multi-dimensional Driving Risk Assessment with Limited Dynamic Vehicle Information (GPSを活用した長距離旅客輸送に関する運転リスク評価研究)	96
19	Associate Professor National Yang Ming Chiao Tung University	吳宗修 T. Hugh Woo	Analysis of Scooter Delivery Rider's Behavior in Yielding at Intersections (配達車両運転者の行動特性研究(交差点で歩行者他に道を譲るか否か))	96
計8件				631

② 著作・論文表彰

該当なし

③ 普及・啓発助成

No.	助成先	助成内容	助成金額(万円)
1	(一財)日本交通安全教育普及協会	「交通安全ファミリー作文コンクール」募集ポスター作成費用他	59
2	内閣府(政策調整担当)	「秋の全国交通安全運動」ポスター作成配付費用	5
3	交通安全フォーラム推進協議会	「交通安全フォーラム」協賛	10
4	内閣府(政策調整担当)	「春の全国交通安全運動」ポスター作成配布費用	5
計4件			79

(2) 高齢者福祉分野

① 研究助成

No.	研究代表者		研究課題	助成金額(万円)
1	国立奈良女子大学 アジアジェンダー文化研究所 協力研究員	飯田 愛紀	ケアを提供する高齢者:東アジアにおける「孫育て」を通したクオリティ・オブ・ライフの探索的研究	80
2	徳島大学大学院 歯歯業学研究所薬理学分野 教授	池田 康将	慢性腎臓病と腎老化におけるマクロファージ鉄ストレス制御の役割解明と治療応用への展開	100
3	東京医科大学 組織・神経解剖学分野 准教授	大山 恭司	脳血管ユニットにおける血管の老化とそれに伴うグリア病態のメカニズム解明	115
4	金沢大学がん進展制御研究所 免疫環境ダイナミクス研究分野 教授	岡本 一男	筋修復に関わる新規免疫細胞集団を標的とした筋再生技術開発	140
5	東京大学大学院 医学系研究科老年病学 教授	小川 純人	男性ホルモンの骨格筋代謝・筋骨連関に及ぼす作用とその加齢変化・性差に関する研究	200
6	東北大学 学際科学フロンティア研究所 准教授	奥村 正樹	アルツハイマー型認知症の予防・治療を目指したプロテオスタシスの理解	160
7	奈良女子大学研究院 生活環境科学系生活健康学領域 助教	鍵本 明里	分光分布の違いが高齢者の視覚的效果へもたらす影響に関する研究	100
8	東京農業大学大学院 環境共生学専攻 教授	上岡 洋晴	高齢者を対象としたいわゆる健康食品の広報戦略の特徴:科学的思考を歪めさせるキャッチ・フレーズ	55
9	大阪大学大学院 医学系研究科 大学院生	喜多 洸介	歩行障害の原因疾患を推定するマルチモーダル AI	140
10	大阪大学大学院 連合小児発達学研究所 教授	木村 亮	長期経管栄養が腸内細菌叢を介して加齢変化に及ぼす影響に関する研究	120
11	東京都立大学 准教授	児玉 謙太郎	高齢者の転倒予防のための VR 歩行トレーニング・システムの開発	100
12	三重大学大学院医学系研究科 准教授	實木 亨	脳老化に伴う AMPA 受容体翻訳後修飾の同定と生理機能の解明	120
13	昭和大学臨床薬理研究所 講師	清水 峻志	加齢性心不全におけるプロテオスタシス破綻の病態解明研究	160

No.	研究代表者		研究課題	助成金額(万円)
14	兵庫医科大学 医学部総合診療内科学 助教	庄嶋 健作	生体内リプログラミングにより誘導される循環物質を介した抗加齢療法	120
15	芦屋大学 経営教育学部経営教育学科 講師	高倉 弘士	「生涯現役」時代における高齢期の労働と生活に関する調査研究	70
16	東京大学大学院 総合文化研究科 大学院生	高橋 涼吾	転倒恐怖心が立位バランスを低下させる神経メカニズムの解明～大脳皮質活動に着目して～	40
17	国立長寿医療研究センター研究所 ジェロサイエンス研究センター 統合神経科学研究部 部長	田口 明子	認知機能障害発症におけるアストロサイトのインスリン作用機構の関与についての検討	180
18	昭和大学大学院薬学研究所 助教	谷 拓朗	DPC データによる Dementia Assessment Sheet for Community-based Integrated Care System-21 items 予測モデルの開発	50
19	新潟大学歯学総合病院 義歯診療科 講師	長谷川 陽子	ライフスタイルの変化に応じたオーラルヘルスアプローチによる引きこもり予防	100
20	東京大学医学部附属病院 循環器内科 助教	東邦 康智	炎症を標的とした新規心不全治療の開発	100
21	国立循環器病研究センター 脳神経内科 医師	福岡 一樹	細菌叢代謝系に着目した高齢脳卒中患者におけるサルコペニア・嚥下障害の基盤研究	100
22	京都府立医科大学大学院医学研究科 内分泌代謝内科 フューチャーステップ研究員	宗川 ちひろ	フレイル対策のための RNA 干渉による骨格筋機能回復の検討	90
23	文京学院大学人間学部心理学科 教授	山崎 幸子	高齢者に対する自伝的記憶の活性化による心理・社会的効果 —ガイド付き自伝プログラム短縮版の検証—	50
24	国立感染症研究所エイズ研究センター 第二研究グループ グループ長	山本 浩之	高齢者の感染予後を攪乱する成人発症型 IEL(先天性免疫疾患)群の同定・解明に基づく臨床指標の構築	100
計 24 件				2,590

② 著作・論文表彰

著者	題名	副賞(万円)
国立長寿医療研究センター メディカルゲノムセンター 部長	重水 大智 【論文・財団奨励賞】 Whole-genome sequencing reveals novel ethnicity-specific rare variants associated with Alzheimer's disease 全ゲノム解析による新規日本人特異的に認められるアルツハイマー病発症に関連する変異の同定	30
計 1 件		30

③ 普及・啓発助成

No.	助成先	助成内容	助成金額(万円)
1	第33回日本老年学会総会	「高齢者の自動車運転をめぐって」シンポジウム協賛	88
計 1 件			88

④ 施設・事業助成

No.	助成先	助成内容	助成金額(万円)
1	社会福祉法人壱阪寺聚徳会	介護福祉車両購入費用(奈良県高取町)	100
2	社会福祉法人水仙福祉会	介護福祉車両購入費用(大阪府大阪市)	100
3	社会福祉法人千歳会	介護福祉車両購入費用(滋賀県彦根市)	80
計 3 件			280

令和6年度(2024年度)

(1) 交通事故・各種災害の防止等分野

① 研究助成

a. 国内

No.	研究代表者		研究課題	助成金額(万円)
1	日本大学理工学部 交通システム工学科 助教	青山 恵里	幹線道路の道路条件および交通状況から見る生活道路の交通事故の特徴および交通事故対策に関する研究	120
2	東京医科歯科大学病院 脳神経外科 助教	阿部 大数	パッチ脳波計と自動瞳孔計による頭部外傷患者重症度の新たな評価指標の開発	140

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)	
3	札幌医科大学附属産学・地域連携センター 特任准教授	板垣 史郎	交通事故医療の質の向上に資する、間欠動作機能を備える革新的低圧吸引器の開発	50
4	弘前大学大学院 地域社会研究科 客員研究員	大野 悠貴	運転免許返納リスクの情報提示を起点とした高齢ドライバーの多様な移動手段選択方策の実践研究	100
5	千葉大学大学院 医学薬学府 大学院生	北村 昂己	交通事故に伴う脊椎骨折の見逃しを防ぐための大規模言語モデルを用いた電子カルテスクリーニングシステムの開発	80
6	大分県警察本部 刑事部科学捜査研究所 主任研究員	末房 優子	アルコールバイオマーカーに着目した飲酒運転時における体内アルコール濃度推定に関する研究 - アルコール等影響発覚免脱事案への適用を目指して -	120
7	鳥取大学工学部 教授	田村 篤敬	被追突時のむち打ち損傷を予防する乗員保護シートコンセプトの開発	60
8	国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学 准教授	藤原 幸一	触覚疑似心拍フィードバックによる運転中のフラストレーション軽減とあおり運転防止	100
9	東京ベイ・浦安市川医療センター 救命救急センター センター長	船越 拓	発生場所、事故状況、受傷内容などの自転車事故の実態を明らかにするための国内多施設横断研究	130
10	公益財団法人豊田市交通研究所 主幹研究員	三村 泰広	生活道路における交通事故リスクと安心感の不整合メカニズムの解明	150
11	関西医科大学リハビリテーション学部 作業療法学科 助教	宮原 智子	高次脳機能障害者の就労継続に必要な要因に関する研究	29
12	熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター 准教授	吉城 秀治	地球沸騰化時代における小学生の登下校環境のあり方の検討	90
計 12 件			1,169	

b. 海外

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)	
13	Research Assistant School of Public Health, Walailak University	Francis Walugembe	Keeping Teenagers Safe on the Roads: Developing A Regional Road Safety Education Program in Nakhon Si Thammarat Province, Thailand (道路上での青少年の安全確保: タイのナコンシータマラート県における地域道路安全教育プログラムの開発)	70
14	Associate professor King Mongkut's University of Technology Thonburi	Pattaramon Jongpradist	Advanced Safety Design and Analysis for Electric Motorcycles in Thailand (タイにおける電動バイクの高度な安全設計と分析)	70
15	Assistant Professor Faculty of Engineering, Thai-Nichi Institute of Technology	Pimpet Sratong-on	The sustainable development of the bio-based fire-retardant guide post from mycelium-based composite using spent coffee grounds mixed with agro-waste and recycled paper (使用済みコーヒーかすと農業廃棄物およびリサイクル紙を混合した菌糸体ベースの複合材料からバイオベースの耐火ガイドポストの持続可能な開発)	70
16	Assistant Professor Department of Urban and Regional Planning, Faculty of Architecture, Chulalongkorn University	Napong Tao Rugkhanan	Understanding wrong-way driving from from anthropological and geographic perspectives (人類学的・地理学的視点からの逆走の理解)	70
17	Master's Student Department of Transportation and Communication Management Science, National Cheng Kung University	王 焜富 Heng-Fu Wang	Examining the Risk of the Near Misses for Light Rail Transit Using Multinomial - Generalized Poisson Models (ライトレール輸送 (LRT: 小型軽量交通システム) のニアミスに関するリスク分析)	97
18	Associate Professor Department of Merchant Marine, National Taiwan Ocean University	劉中平 Chung-Ping Liu	The Near-Miss Risk Assessment of LNG Ships (LNG 船 (液化天然ガス・タンカー) の事故傾向とニアミスに関するリスク評価分析)	97
19	Professor Department of Risk Management and Insurance of Feng Chia University	許文彦 Wen-Yen Hsu	The Loss Experience of Auto Physical Damage Insurance Sold Through Internet in Taiwan (台湾におけるインターネット加入自動車保険契約の損害 (他チャネルとの比較) 研究)	97
計 7 件			571	

② 著作・論文表彰

著者	題名	副賞(万円)	
関西大学社会安全学部 教授	近藤 誠司	【著作・財団奨励賞】 防災教育学の新機軸 まなび合いのアクションリサーチ	30
和歌山大学経済学部 教授	辻本 勝久	【著作・財団奨励賞】 SDG s 時代の地方都市圏の交通まちづくり	30
計 2 件		60	

③ 普及・啓発助成

No.	助成先	助成内容	助成金額(万円)
1	(一財)日本交通安全教育普及協会	「交通安全ファミリー作文コンクール」募集ポスター作成費用他	59
2	内閣府(政策調整担当)	「秋の全国交通安全運動」ポスター作成配付費用	5
3	交通安全フォーラム推進協議会	「交通安全フォーラム」協賛	25
4	内閣府(政策調整担当)	「春の全国交通安全運動」ポスター作成配布費用	5
計4件			94

(2) 高齢者福祉分野

① 研究助成

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)
1	高知大学教育研究部医学系 基礎医学部門遺伝子機能解析学講座 教授 麻生 悌二郎	抗アルツハイマー病因子 BRI2/BRI3 のユビキチン化阻害による革新的認知症創薬	170
2	宮崎大学医学部附属病院 名誉教授 荒木 賢二	医学的知識に基づく生成 AI を用いた介護施設ケース記録のサマリー生成による暗黙知の共有と活用	100
3	東京大学医学部附属病院 22 世紀医療センターロコモ予防学講座 特任助教 飯高 世子	骨、関節、筋疾患の包括的な疫学指標と予後への影響の解明：20 年にわたる地域住民コホートの追跡	170
4	東京医科歯科大学 脳神経外科 講師 稲次 基希	AI を用いた、非侵襲的嚥下機能評価アプリケーション開発の研究	100
5	信州大学医学部附属病院 整形外科 講師 上原 将志	無作為抽出地域住民コホートをを用いた脊椎姿勢異常の病態解明(第 2 期おぶせスタディ)	160
6	名古屋大学大学院医学系研究科 地域在宅医療学・老年科学 教授 梅垣 宏行	老年内科の入院患者における抗コリン薬リスクと潜在的不適切処方の意義の検討	170
7	国立長寿医療研究センター 医療経済研究部 副部長 (老年内科・医長 兼任) 大西 丈二	プロプレムリストや高齢者総合機能評価等のテキストデータをデータベース化するプログラム開発とそれをを用いた臨床転帰および医療費との関連に関する分析研究	160
8	大阪大学大学院薬学研究科 准教授 尾花 理徳	ポドサイトにおける新規分子機構に着目した、加齢が腎臓に与える影響の解明	160
9	東京大学大学院工学系研究科 電気系工学専攻 特任教授 亀崎 允啓	ウェアラブル・コントロール・モーメント・ジャイロを用いたライトタッチ効果に基づく歩行安定性効果の検証	160
10	東京医科歯科大学 介護・在宅医療連携システム開発学講座/ 総合診療科 教授 木村 琢磨	在宅医療を新規導入後に緊急入院する患者、再び自宅へ退院可能な患者の背景因子に関する検討	100
11	東京医科大学 薬理学分野 講師 草刈 伸也	認知症原因蛋白のミトコンドリア内異常多量体形成による細胞死機構の解明とこれを標的とした治療薬開発	160
12	国立大学法人京都大学大学院 医学研究科 腫瘍生物学講座 助教 佐伯 龍之介	高齢者におけるクローン性造血を標的とした次世代の予防医療の基盤構築	160
13	地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所 研究員(係長級) 佐々木 紀彦	老化内皮細胞由来 SULF2 による加齢性疾患の発症、重症化機構の解明	160
14	国立長寿医療研究センター バイオインフォマティクス研究部長 重水 大智	全ゲノム解析を基盤としたレビー小体型認知症の病態メカニズムの解明	170
15	千葉大学大学院 情報学研究院 助教 寶石 幸穂	機械学習の手法を用いた高齢者のせん妄発症予測モデルの開発 一時的データに着目して	100
16	公立学校共済組合九州中央病院 泌尿器科 部長 関 成人	オムツはずしの実践 一高齢者における排尿管理簡易マニュアルの有効性の検討	100
17	大阪公立大学大学院医学研究科 病態生理学 講師 高杉 征樹	比較生物学的手法を駆使した、加齢に伴う生体適応機構の解明	200
18	山梨大学大学院 医工農学総合教育部 博士課程 ヒューマンヘルスケア学専攻 同大学院 総合研究部 医学域看護学系 医学研究員 瀧本 まどか	長期療養施設の経管栄養管理中の高齢者の夜間多尿と水分摂取量と体組成の関係：観察研究 横断研究	40
19	地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター 腎臓内科・透析科 部長 武井 卓	高齢慢性腎臓病患者に対する保存的腎臓療法と透析療法の生命予後と機能予後および QOL の比較研究	170

No.	研究代表者	研究課題	助成金額(万円)	
20	特定非営利活動法人 健康心理教育実践センター 理事長	竹中 晃二	高齢者の生きがい強化を目的とした行動変容型介入ワークブックの開発および活用	120
21	福井大学医学部附属病院 救急部・集中治療部 特命助教	秦 龍彦	救急外来で人工呼吸器管理が必要となった高齢者の退院時日常生活活動度の予測モデル作成	160
22	慶應義塾大学医学部 衛生学公衆衛生学教室 特任助教	船田 哲	医療需給バランスに基づいた最適な医療提供体制の提示	120
23	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 客員教授	三谷 雅純	言葉を理解できなくなった聴覚失認者および類似の症状を持つ高齢者の認識する生活世界の研究	90
24	大阪大学大学院医学系研究科 生化学・分子生物学講座 遺伝学 特任助教(常勤)	南 聡	慢性腎臓病進展に関わる SASP 因子の探索とその作用機構解析: 健康長寿の実現に向けて	170
25	順天堂大学大学院医学研究科 循環器内科学 准教授	横山 美帆	高齢心血管疾患患者の移行期ケアにおける心臓リハビリテーション断片化予防を目的とした病院地域連携バスの開発	125
計 25 件			3,495	

② 著作・論文表彰

著者	題名	副賞(万円)	
国立研究開発法人国立長寿医療研究センター フレイル研究部 副部長	大須賀 洋祐	【論文・財団奨励賞】 Occupational Fall Risk Assessment Tool for older workers 高齢労働者のための就業転倒リスク評価ツール	30
千葉大学予防医学センター 特任助教	井手 一茂	【論文・財団奨励賞】 Participation in Community Gathering Places and Subsequent Health and Well-Being: An Outcome-Wide Analysis 高齢者における通いの場参加とその後の健康・ウェルビーイング: アウトカムワイド分析	30
計 2 件		60	

③ 施設・事業助成

No.	助成先	助成内容	助成金額(万円)
1	社会福祉法人 仁風会	介護福祉車両購入費用(大阪府東大阪市)	100
計 1 件			100

Ⅵ. 年度別助成実績

<昭和50年度(1975年度)～令和6年度(2024年度)>

(付帯費を除く。単位：件、万円)

年度	交通事故・各種災害の防止等				高齢者福祉				合 計				全助成に占める 研究助成の割合	
	研究助成		全助成		研究助成		全助成		研究助成		全助成		件数	金額
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額		
S50 (1975)	2	400	6	800					2	400	6	800	33.3%	50.0%
S51 (1976)	1	300	14	1,780					1	300	14	1,780	7.1%	16.9%
S52 (1977)	1	100	28	3,210					1	100	28	3,210	3.6%	3.1%
S53 (1978)	1	100	31	3,598					1	100	31	3,598	3.2%	2.8%
S54 (1979)	3	730	29	4,000					3	730	29	4,000	10.3%	18.3%
S55 (1980)	5	1,296	33	5,176					5	1,296	33	5,176	15.2%	25.0%
S56 (1981)	6	1,657	38	6,106					6	1,657	38	6,106	15.8%	27.1%
S57 (1982)	1	300	39	6,552					1	300	39	6,552	2.6%	4.6%
S58 (1983)	2	600	37	6,742					2	600	37	6,742	5.4%	8.9%
S59 (1984)	4	1,000	42	7,052					4	1,000	42	7,052	9.5%	14.2%
S60 (1985)	2	450	39	6,462					2	450	39	6,462	5.1%	7.0%
S61 (1986)	2	580	40	5,952					2	580	40	5,952	5.0%	9.7%
S62 (1987)	3	450	38	5,387					3	450	38	5,387	7.9%	8.4%
S63 (1988)	6	950	40	5,577					6	950	40	5,577	15.0%	17.0%
H1 (1989)	4	800	37	5,217					4	800	37	5,217	10.8%	15.3%
H2 (1990)	6	1,400	34	5,617					6	1,400	34	5,617	17.6%	24.9%
H3 (1991)	2	550	27	4,650	1	200	28	3,067	3	750	55	7,717	5.5%	9.7%
H4 (1992)	6	1,930	27	4,613	4	450	41	5,070	10	2,380	68	9,683	14.7%	24.6%
H5 (1993)	22	3,570	38	5,715	13	1,880	42	4,788	35	5,450	80	10,503	43.8%	51.9%
H6 (1994)	20	3,521	30	4,539	22	4,283	38	5,433	42	7,804	68	9,972	61.8%	78.3%
H7 (1995)	17	3,030	26	3,820	16	3,130	20	3,619	33	6,160	46	7,439	71.7%	82.8%
H8 (1996)	16	2,390	25	3,174	20	3,070	27	3,940	36	5,460	52	7,114	69.2%	76.8%
H9 (1997)	17	2,380	26	3,098	19	2,955	29	3,805	36	5,335	55	6,903	65.5%	77.3%
H10 (1998)	17	2,340	27	3,133	17	2,695	26	3,545	34	5,035	53	6,678	64.2%	75.4%
H11 (1999)	12	1,870	21	2,566	18	2,750	25	3,350	30	4,620	46	5,916	65.2%	78.1%
H12 (2000)	16	2,175	24	2,737	15	2,430	22	3,030	31	4,605	46	5,767	67.4%	79.9%
H13 (2001)	16	1,625	22	1,977	22	2,730	31	3,280	38	4,355	53	5,257	71.7%	82.8%
H14 (2002)	15	1,530	21	1,882	23	2,615	40	3,486	38	4,145	61	5,368	62.3%	77.2%
H15 (2003)	20	1,880	29	2,322	21	2,710	33	3,450	41	4,590	62	5,772	66.1%	79.5%
H16 (2004)	13	1,130	19	1,462	26	2,480	35	3,010	39	3,610	54	4,472	72.2%	80.7%
H17 (2005)	14	1,225	23	1,637	32	2,240	46	2,930	46	3,465	69	4,567	66.7%	75.9%
H18 (2006)	14	1,117	20	1,451	25	2,384	35	2,914	39	3,501	55	4,365	70.9%	80.2%
H19 (2007)	18	1,337	24	1,621	33	2,612	40	3,190	51	3,949	64	4,811	79.7%	82.1%
H20 (2008)	17	1,042	23	1,330	30	3,040	37	3,644	47	4,082	60	4,974	78.3%	82.1%
H21 (2009)	19	1,250	25	1,533	31	2,729	39	3,286	50	3,979	64	4,819	78.1%	82.6%
H22 (2010)	15	947	21	1,211	25	2,542	28	2,772	40	3,489	49	3,983	81.6%	87.6%
H23 (2011)	13	876	18	1,038	29	2,676	31	2,736	42	3,552	49	3,774	85.7%	94.1%
H24 (2012)	13	941	18	1,056	27	2,747	30	2,966	40	3,688	48	4,022	83.3%	91.7%
H25 (2013)	13	918	19	1,055	28	2,820	31	3,010	41	3,738	50	4,065	82.0%	92.0%
H26 (2014)	13	986	17	1,084	28	2,763	30	2,951	41	3,749	47	4,035	87.2%	92.9%
H27 (2015)	13	923	18	1,123	28	2,812	32	3,212	41	3,735	50	4,335	82.0%	86.2%
H28 (2016)	14	1,024	19	1,149	23	2,592	27	2,889	37	3,616	46	4,038	80.4%	89.5%
H29 (2017)	16	1,210	22	1,384	24	2,701	30	3,215	40	3,911	52	4,599	76.9%	85.0%
H30 (2018)	17	1,167	21	1,262	25	2,661	30	3,019	42	3,828	51	4,282	82.4%	89.4%
R1 (2019)	15	1,124	19	1,220	25	2,416	28	2,715	40	3,540	47	3,935	85.1%	90.0%
R2 (2020)	17	1,217	21	1,316	28	2,764	31	2,924	45	3,981	52	4,240	86.5%	93.9%
R3 (2021)	16	1,320	21	1,429	22	2,366	24	2,426	38	3,686	45	3,854	84.4%	95.6%
R4 (2022)	16	1,409	21	1,517	23	2,535	25	2,685	39	3,944	46	4,202	84.8%	93.9%
R5 (2023)	19	1,466	23	1,545	24	2,590	29	2,988	43	4,056	52	4,532	82.7%	89.5%
R6 (2024)	19	1,667	25	1,820	25	3,495	28	3,655	44	5,162	53	5,475	83.0%	94.3%
累計	568	64,203	1,305	151,701	772	87,859	1,068	112,996	1,340	152,062	2,373	264,697	56.5%	57.4%

(注)「全助成」は、「研究助成」に「著作・論文表彰」、「普及・啓発助成」、「施設・事業助成」等を加えたものである。

Ⅶ. 過去の周年記念事業

1. 5周年 <昭和55年（1980年）>

①式典・交通安全シンポジウムの開催（総理府・警察庁後援 於：経団連会館）

②懸賞論文（応募総数34編）

内閣総理大臣賞：「交通教育の体系化」

大阪大学人間科学部助教授 長山 泰久 氏

総理府総務長官賞：「交通安全対策を考える」

香川県多度津町 交通安全を守る会連絡協議会長 山地 力 氏

他に住友海上福祉財団賞（2編）、佳作（4編）が入賞（応募総数34編）

③「これからの交通安全対策を考える－21世紀への展望－」を刊行



設立5周年記念交通安全シンポジウム（1980年11月10日）

2. 10周年 <昭和60年（1985年）>

①「交通安全確保の理念と効果的な方策」についての懸賞論文を総務庁・警察庁の後援を得て募集（応募総数96編）

内閣総理大臣賞：「交通安全教育技法の実践」

日本大学理工学部教授 長江 啓泰 氏

埼玉県立大宮東高校教諭 阿部 泉 氏

「運転管理」編集委員 坂崎 善之 氏

千葉大学文学部教授 鈴木 春男 氏

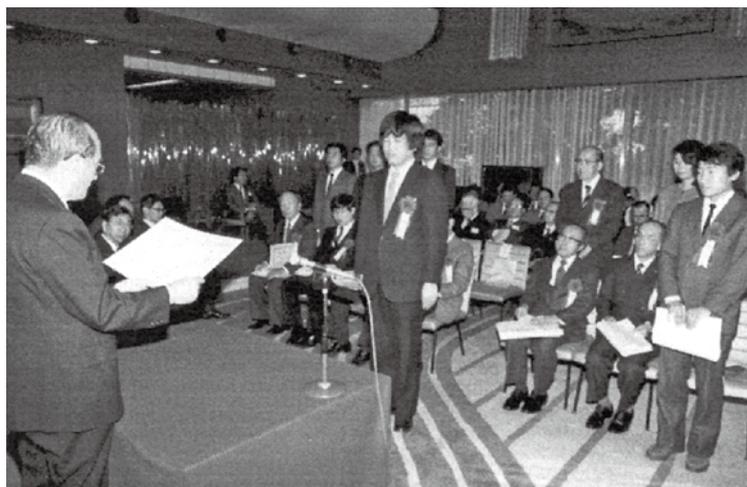
総務庁長官賞：「より安かつ快適なモータリゼーションはいかにして得られるか」

成蹊大学工学部教授 江守 一郎 氏

他に住友海上福祉財団理事長賞4編、研究奨励賞（佳作）5編が入賞

②住友会館で式典・表彰式開催

③「入選論文集 交通安全確保の理念と効果的な方策」を刊行（1986年2月）



設立 10 周年記念論文入賞者授賞式（1985 年 11 月 14 日）

3. 20 周年 <平成 7 年（1995 年）>

① 20 周年記念研究助成（交通安全・高齢者福祉 各 1 件）

研究期間は 2 年、助成金額 各 1,000 万円（500 万円／年）

交通安全：「これからの交通戦争」

横浜国立大学工学部教授

大蔵 泉 氏

高齢者福祉：「老年痴呆に関する基礎的ならびに臨床的研究」

群馬大学医学部教授

平井 俊策 氏

② 記念講演：「これからの交通戦争」

日本大学理工学部教授・東京大学名誉教授

越 正毅 氏

「老年期痴呆について」

群馬大学医学部教授

平井 俊策 氏

③ 住友海上新川本社（当時）ビルで式典並びに授賞式開催

④ “財団 20 年のあゆみ” 発行



設立 20 周年記念式典・講演会（1995 年 11 月 22 日）

4. 30周年 <平成17年(2005年)>

① 30周年記念 寄付講義 寄附額：65万円

芝浦工業大学で2005年5月～2006年3月まで9回開催

内容：「ライフサイエンス”高齢者、障害者の生命・生活支援、最新の医療現場”」

② 30年誌発行

③ 記念式典および記念講演の開催

記念講演：「脳を知り脳をきたえる」 東北大学教授 川島 隆太 氏

④ 「交通安全対策の評価と効果測定」をテーマとする研究を募集し2006年度に発表
指定研究（助成金各100万円）

「交通事故死者数の削減を目的とした重点的交通事故マイクロ調査の意義に関する研究」

日本医科大学千葉北総病院救急救命センター長 益子 邦洋 氏

（千葉県交通事故調査委員会委員）

「スキッドマークによる交差点危険評価手法に関する研究」

日本大学理工学部 社会交通工学科 専任講師 安井 和彦 氏



設立30周年記念式典（2005年11月17日）

5. 40周年 <平成27年(2015年)>

① 設立40周年記念式典・平成27年度贈呈式を開催（於 住友会館）

40周年記念特別賞を4名に贈呈（副賞各100万円）

内訳は交通事故・各種災害の防止等分野で1名、高齢者福祉分野で3名。ならびに、例年の国内研究助成もあわせて贈呈（交通事故・各種災害の防止等分野8名、高齢者福祉分野25名）

② 記念講演（上記の記念特別賞受賞者による特別講演）

「ボランティアによる交通安全教育と子どもの行動変容」

一般財団法人日本自動車研究所 安全研究部

主任研究員：大谷 亮 氏

「男性ホルモンと老年病」

東京大学大学院医学系研究科 加齢医学

教授：秋下 雅弘 氏

「在宅療養高齢者の生命予後ならびに在宅療養の継続性に与える様々な因子に関する研究」

名古屋大学大学院医学系研究科 地域在宅医療学・老年科学

教授：葛谷 雅文 氏

「高齢者の転倒予防に関する基礎研究～筋の量から質へ、動きから動きを司る神経システムへ～」
京都大学大学院 人間・環境学研究科 認知・行動科学講座 教授：神崎 素樹 氏

③ご来賓祝辞

- ・内閣府大臣官房審議官 小野田 壮 氏
- ・MS & AD インシュアランスグループホールディングス株式会社
代表取締役社長 柄澤 康喜 氏
(現 当財団理事長)

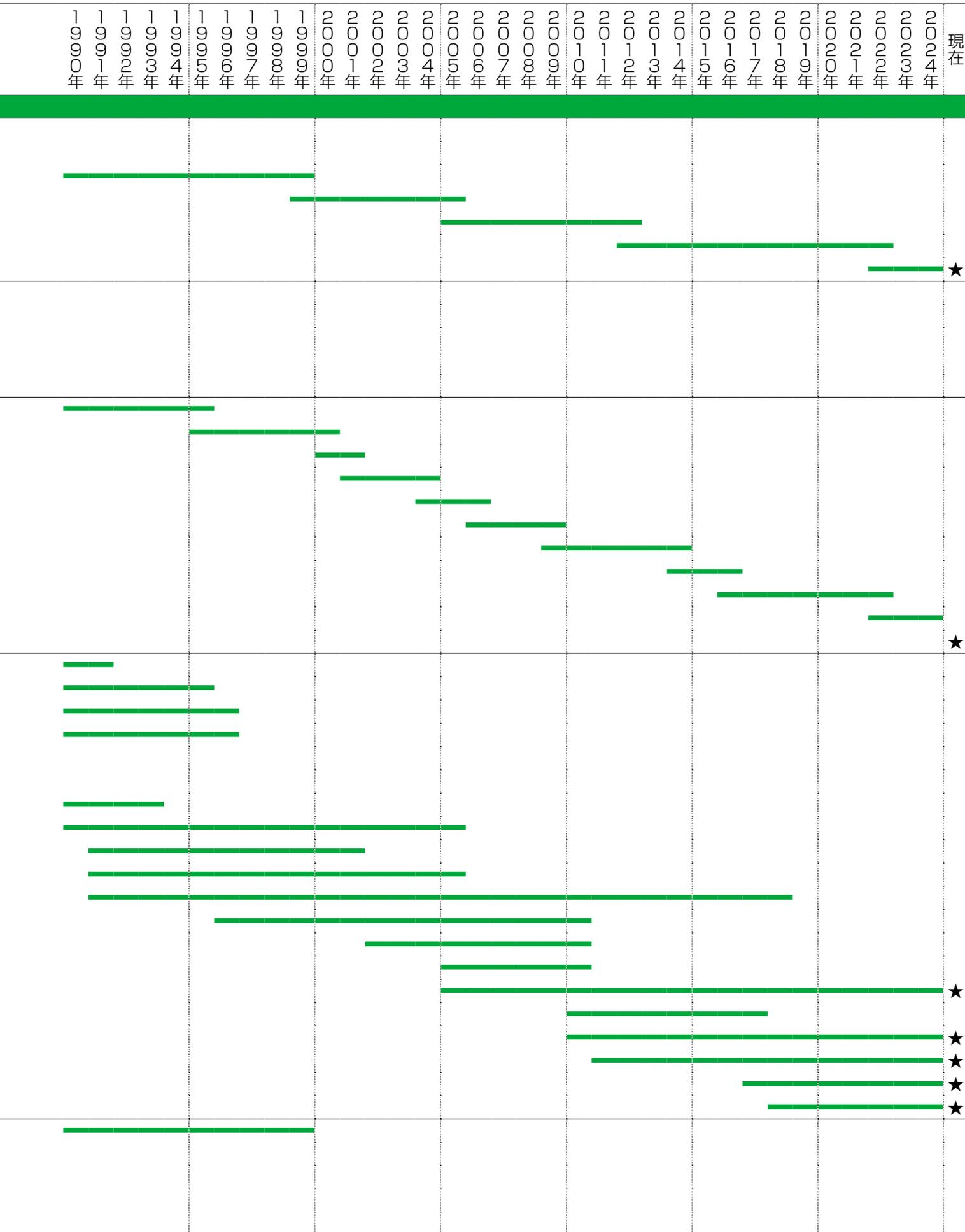
④記念誌「この10年の軌跡」を発行（2016年2月）



設立40周年記念式典・平成27年度贈呈式（2015年11月17日）

Ⅷ. 歴代の財団役員等ならびに選考委員

役職	氏名	就任期間	1975年	1976年	1977年	1978年	1979年	1980年	1981年	1982年	1983年	1984年	1985年	1986年	1987年	1988年	1989年			
役員																				
理事長	溝口周次	1975/09/01 ~ 1979/05/24	■																	
	諸葛義夫	1979/05/24 ~ 1983/08/21					■													
	伊藤清敏	1983/11/01 ~ 1999/06/30												■						
	徳増須磨夫	1999/06/30 ~ 2005/06/30																		
	小野田隆	2005/07/01 ~ 2012/03/27																		
	植村裕之	2012/03/27 ~ 2022/06/16																		
	柄澤康喜	2022/06/16 ~ 現在																		
常務理事	上原一男	1975/09/01 ~ 1977/10/21	■																	
	倉本一雄	1977/10/21 ~ 1979/05/24				■														
	小栗晴雄	1979/05/24 ~ 1981/10/22					■													
	矢吹彰男	1981/10/22 ~ 1989/06/30												■						
	小田武春	1989/07/01 ~ 1989/12/04																		
専務理事	小田武春	1989/12/05 ~ 1995/06/30																		
	齋藤正昭	1995/07/01 ~ 2000/06/30																		
	富川一男	2000/06/30 ~ 2001/09/30																		
	藤岡信吾	2001/10/01 ~ 2004/06/30																		
	西山雄治	2004/07/01 ~ 2006/03/31																		
	関口和夫	2006/04/01 ~ 2009/03/31																		
	今村泰弘	2009/04/01 ~ 2014/03/18																		
	熊谷陽一	2014/03/18 ~ 2016/03/31																		
	野村義人	2016/04/01 ~ 2022/03/31																		
	友竹明彦	2022/04/01 ~ 2025/03/17																		
	塩崎一馬	2025/04/01 ~ 現在																		
理事	伊達利知	1975/09/01 ~ 1991/10/31	■																	
	鈴木竹雄	1975/09/01 ~ 1995/11/03	■																	
	今野源八郎	1975/09/01 ~ 1996/11/10	■																	
	三邊謙	1975/09/01 ~ 1996/01/26	■																	
	鳩山威一郎	1975/09/01 ~ 1977/03/31	■																	
	上原一男	1977/10/21 ~ 1979/05/24	■																	
	鳩山威一郎	1978/02/17 ~ 1993/02/28												■						
	中村貢	1990/06/27 ~ 2005/06/30																		
	原澤道美	1991/03/06 ~ 2001/11/03																		
	金田一郎	1991/06/06 ~ 2005/06/30																		
	伊達昭	1991/11/01 ~ 2018/03/15																		
	伊藤久雄	1996/06/03 ~ 2010/11/27																		
	越正毅	2002/06/10 ~ 2010/05/18																		
	堤修三	2005/07/01 ~ 2010/02/18																		
	河北博文	2005/07/01 ~ 現在																		
	関野宏明	2010/02/18 ~ 2017/06/23																		
	鈴木春男	2010/06/17 ~ 現在																		
	大内尉義	2011/03/17 ~ 現在																		
児玉桂子	2017/06/23 ~ 現在																			
小川武希	2018/03/15 ~ 現在																			
監事	松崎正躬	1975/09/01 ~ 1999/11/03	■																	
	川鍋睦雄	1975/09/01 ~ 1977/03/31	■																	
	齋藤保	1977/04/01 ~ 1979/08/30					■													
	木村靖夫	1979/08/30 ~ 1982/06/30						■												
	織田正剛	1982/06/03 ~ 1986/05/29											■							



役職	氏名	就任期間	1975年	1976年	1977年	1978年	1979年	1980年	1981年	1982年	1983年	1984年	1985年	1986年	1987年	1988年	1989年
監事	齋藤正昭	1986/05/29 ~ 1988/05/26															
	富川一男	1988/05/26 ~ 1991/10/31															
	西山雄治	1991/10/31 ~ 2001/11/03															
	杉山茂八	1999/11/03 ~ 2007/06/30															
	池田克朗	2001/11/03 ~ 2005/06/30															
	藤森謙司	2005/07/01 ~ 2008/06/30															
	伊東健治	2007/07/01 ~ 2021/06/24															
	高橋宏之	2008/07/01 ~ 2013/06/18															
	後藤仁志	2013/06/18 ~ 2017/03/31															
	羽田宏之	2017/04/01 ~ 2020/06/25															
	福田寧子	2020/06/26 ~ 2023/06/22															
	高橋勉	2021/06/24 ~ 現在															
野田智意	2023/06/22 ~ 現在																
評議員																	
評議員	上野豊	1982/05/11 ~ 2005/06/30															
	小平久雄	1982/05/11 ~ 1997/10/30															
	小林宏治	1982/05/11 ~ 1996/11/30															
	小枝正裕	1982/05/11 ~ 2001/10/19															
	橋口収	1982/05/11 ~ 2005/06/30															
	牧野耕二	1982/05/11 ~ 1999/10/28															
	越正毅	1982/05/11 ~ 2002/06/10															
	新井正明	1983/05/11 ~ 2001/06/11															
	伊藤清敏	1983/05/11 ~ 1983/10/31															
	溝口周次	1983/11/01 ~ 1986/03/14															
	中村兼三	1997/05/31 ~ 2005/06/30															
	小田武春	1997/10/30 ~ 2009/06/30															
	新良篤	1999/10/28 ~ 2015/06/17															
	松方康子	2001/06/11 ~ 2011/11/27															
	大泉博子	2002/04/01 ~ 現在															
	大内尉義	2002/04/01 ~ 2011/03/17															
	京極高宣	2002/04/01 ~ 2005/03/31															
	関口和夫	2003/06/30 ~ 2006/03/31															
	長江啓泰	2005/07/01 ~ 2016/01/28															
	西垣浩司	2005/07/01 ~ 2008/03/31															
	菊池光興	2005/07/01 ~ 2017/10/27															
	柿本克彦	2006/04/01 ~ 2011/06/23															
	成田正路	2006/04/01 ~ 2022/06/16															
	佐々木元	2008/07/01 ~ 2016/06/16															
	齋藤正昭	2009/07/01 ~ 2013/06/18															
	岩本俊彦	2011/03/17 ~ 現在															
	木村篤	2011/06/23 ~ 2014/06/17															
	井口武雄	2012/03/27 ~ 2023/03/31															
	富川一男	2013/06/18 ~ 2017/06/23															
	西川浩	2014/06/17 ~ 2017/06/23															
	村上仁志	2015/06/17 ~ 現在															
	高田邦道	2016/01/29 ~ 現在															
矢野薫	2016/06/16 ~ 現在																
西山雄治	2017/06/23 ~ 2022/06/16																
川辺寿也	2017/06/23 ~ 2021/06/24																
鎌原俊二	2018/03/15 ~ 現在																
江本芳彦	2021/06/24 ~ 2022/06/16																
太田宏	2022/06/16 ~ 現在																

役職	氏名	就任期間	1975年	1976年	1977年	1978年	1979年	1980年	1981年	1982年	1983年	1984年	1985年	1986年	1987年	1988年	1989年
評議員	沖 宏 治	2022/06/16 ~ 2023/06/22															
	関 口 和 夫	2022/06/16 ~ 現在															
	江 頭 敏 明	2023/04/01 ~ 現在															
	中 園 茂 樹	2023/06/22 ~ 現在															
選考委員（交通事故・各種災害の防止等分野）																	
委員長	今 野 源八郎	1993年度 ~ 1996年度															
	越 正 毅	1997年度 ~ 2009年度															
	長 江 啓 泰	2010年度 ~ 2015年度															
	高 田 邦 道	2016年度 ~ 現在															
委員	越 正 毅	1993年度 ~ 2009年度															
	鈴 木 春 男	1993年度 ~ 現在															
	長 江 啓 泰	1993年度 ~ 2015年度															
	中 村 紀 夫	1994年度 ~ 2002年度															
	中 村 貢	1994年度 ~ 2001年度															
	山 口 文 緒	1997年度 ~ 1999年度															
	大 塚 堅 一 郎	2000年度 ~ 2001年度															
	関 野 宏 明	2003年度 ~ 2017年度															
	太 田 博 雄	2006年度 ~ 現在															
	高 田 邦 道	2010年度 ~ 現在															
関 根 太 郎	2016年度 ~ 現在																
小 川 武 希	2018年度 ~ 現在																
選考委員（高齢者福祉分野）																	
委員長	三 邊 謙	1993年度 ~ 1995年度															
	原 澤 道 美	1996年度 ~ 2001年度															
	伊 藤 久 雄	2002年度 ~ 2010年度															
	大 内 尉 義	2011年度 ~ 現在															
委員	金 田 一 郎	1993年度 ~ 2003年度															
	三 枝 正 裕	1993年度 ~ 2001年度															
	原 澤 道 美	1993年度 ~ 2001年度															
	伊 藤 久 雄	1996年度 ~ 2010年度															
	早 崎 健	1996年度 ~ 2001年度															
	京 極 高 宣	2002年度 ~ 2006年度															
	大 内 尉 義	2002年度 ~ 現在															
	大 泉 博 子	2002年度 ~ 現在															
	堤 修 三	2004年度 ~ 2009年度															
	児 玉 桂 子	2006年度 ~ 現在															
	島 崎 謙 治	2010年度 ~ 現在															
	岩 本 俊 彦	2011年度 ~ 現在															
秋 下 雅 弘	2018年度 ~ 現在																
事務局																	
事務局長	萩 野 義 一	1975/09/01 ~ 1979/05/24															
	安 藤 公 三 郎	1979/05/24 ~ 1987/02/16															
	落 合 義 彦	1987/02/16 ~ 1995/06/29															
	山 下 隆 治	1995/06/29 ~ 2004/03/31															
	西 山 雄 治	2004/07/01 ~ 2006/03/31															
	関 口 和 夫	2006/04/01 ~ 2009/03/31															
	今 村 泰 弘	2009/04/01 ~ 2013/11/01															
	熊 谷 陽 一	2013/11/01 ~ 2016/03/31															
	野 村 義 人	2016/04/01 ~ 2022/03/31															
	友 竹 明 彦	2022/04/01 ~ 2025/03/31															
	塩 崎 一 馬	2025/04/01 ~ 現在															
関西駐在	住 友 智 夫	1975/09/01 ~ 1978/07/19															

Ⅸ. 現在の財団役員等・選考委員 ＜令和7年（2025年）12月末現在＞

1. 役員等

理事長	柄澤 康喜（三井住友海上常任顧問）
専務理事	塩崎 一馬（常勤）
理事	大内 尉義（虎の門病院名誉院長）
〃	小川 武希（東京慈恵会医科大学名誉教授）
〃	河北 博文（河北総合病院理事長）
〃	児玉 桂子（日本社会事業大学名誉教授）
〃	鈴木 春男（千葉大学名誉教授）
監事	高橋 勉（公認会計士）
監事	野田 智意（三井住友海上執行役員経理部長）

評議員	岩本 俊彦（東京医科大学名誉教授）
〃	江頭 敏明（三井住友海上名誉顧問）
〃	大泉 博子（元衆議院議員、元国際医療福祉大学客員教授）
〃	太田 宏（元読売新聞大阪本社代表取締役社長）
〃	鎌原 俊二（日本文化大学学長）
〃	関口 和夫（元三井住友海上理事総務部長）
〃	高田 邦道（日本大学名誉教授）
〃	中園 茂樹（三井住友海上理事総務部長）
〃	村上 仁志（三井住友信託銀行名誉顧問）
〃	矢野 薫（元日本電気取締役会長）

2. 選考委員

＜交通事故・各種災害の防止等分野＞

選考委員長	高田 邦道（日本大学名誉教授 交通工学）
選考委員	太田 博雄（東北工業大学名誉教授 交通心理学）
〃	小川 武希（東京慈恵会医科大学名誉教授 救急医学）
〃	鈴木 春男（千葉大学名誉教授 交通社会学）
〃	関根 太郎（日本大学理工学部教授 自動車工学）

＜高齢者福祉分野＞

選考委員長	大内 尉義（虎の門病院名誉院長 老年医学）
選考委員	秋下 雅弘（東京都健康長寿医療センター理事長 老年医学）
〃	岩本 俊彦（東京医科大学名誉教授 老年医学）
〃	大泉 博子（元衆議院議員、元国際医療福祉大学客員教授 ソーシャルサービス）
〃	児玉 桂子（日本社会事業大学名誉教授 福祉生活環境学）
〃	島崎 謙治（国際医療福祉大学大学院教授 社会保障法、医療政策）

あしがき

本冊子は、当財団が昭和50年(1975年)9月に設立されてから50周年を迎えたことから、その記念事業の一環でまとめたものです。

かつて30周年・40周年の際にもそれぞれ記念誌が刊行されているため、設立40周年以降の10年間にスポットを当てて作成いたしました。本誌が、皆様の当財団の活動に対するご理解を深めていただく一助になれば幸甚でございます。

今日まで当財団を育て導いてこられました財団関係の諸先輩の皆様には、心より敬意を表するとともに御礼申し上げます。また、設立以来多大なるご支援を継続していただいている三井住友海上火災保険株式会社につきましても、重ねて厚く御礼申し上げます。

これまでの50年間の事業活動を踏まえ、より一層社会の福祉に貢献してまいる所存でございますので、今後も皆様のご理解・ご支援を賜りたく何卒よろしくお願い申し上げます。

『この10年の軌跡』(設立50周年記念誌)

発行者 公益財団法人 三井住友海上福祉財団
〒101-8011 東京都千代田区神田駿河台3-9
TEL 03-3259-1609 FAX 03-3259-9507
E-mail msi_fukushi@ms-ins.net
URL <https://www.ms-ins.com/welfare/>
発行責任者 塩崎 一馬
発行年月 令和8年(2026年)2月



オフィシャルwebサイト

